

K O K U R A M E M O R I A L H O S P I T A L

K O K U R A

M E M O R I A L H O S P I T A L



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

一般財団法人 平成紫川会 小倉記念病院 〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表)

小倉記念病院

検索



いつもの暮らしに、いつものあなた





ポストコロナ時代の 高度・急性期医療で ひとと社会に貢献する病院

理事長 病院長 腰地 孝昭

新幹線のホームから見える小倉記念病院が浅野に新築移転してからあっという間に10年余りが過ぎました。ここ数年、医療界のみならず社会全体はコロナ一色となり、何事も自粛を旨とする活気のない空気が広がりました。しかし、いつまでも負けてはいられません。人々は当たり前の生活と健康を取り戻し、世界の分断や地球の温暖化といった人類全体の新たな敵と戦わなくてはなりません。そんなポストコロナに向かう時に、私は小倉記念病院のかじ取りを任されました。心臓外科医である私にとって、小倉記念病院は恩師である伴敏彦名誉院長・京都大学名誉教授も活躍された憧れの病院であり、その運営を主宰するという大任に身が震える思いです。しかし、病院には築き上げられた歴史と伝統、努力を重ねた有能な職員があり、地域医療を担う連携病院との固い絆があります。その流れに乗って、これまで同様着実に小倉記念病院ならではの高度・急性期医療を展開し、皆様の期待に沿えるよう職員一同努力いたします。そのことで当院の理念である「患者・地域の幸せにつながる職員の幸せ」を実現していきます。

CONTENTS	
[心臓血管病センター]	
循環器内科	04
心臓血管外科	10
血管外科	16
[脳卒中センター]	
脳神経外科	18
脳神経内科	24
[消化器病センター]	
外科	26
消化器内科	28
[腎センター]	
腎臓内科	30
泌尿器科	31
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	32
婦人科	33
眼科	34
整形外科	35
形成外科	36
麻酔科・集中治療部	37
呼吸器外科	38
呼吸器内科	39
血液内科	40
総合内科	41
糖尿病・内分泌・代謝内科	42
緩和ケア・精神科	43
病理診断科	44
救急部	45
皮膚科	46
放射線科	47
健康管理センター	48
看護部・薬剤部	50
検査技師部・放射線技師部	51
リハビリテーション課・臨床工学課	52
栄養管理課・事務	53
急性期医療	54
地域完結型医療	56
医療環境	58
療養環境	59
病院概要	60

心臓血管内治療の パイオニア

1982年、延吉正清 名誉院長が心臓の血管である冠動脈に対して日本初の経皮的冠動脈形成術（PCI）に成功し、国内ナンバーワンを誇る治療実績を積み重ねてきました。“For the patients, not for myself”で結ばれた約40名の医師で形成される小倉記念病院循環器内科は、循環器疾患のすべての領域において日本をリードする存在であるとの自負のもと、最善の高度先進医療が提供できるよう1人1人の患者さんと向き合っています。



〔取り扱う主な疾患〕

- ・心筋梗塞・狭心症などの虚血性心疾患・肺梗塞・静脈血栓症・心不全、心筋症（拡張型、肥大型）・心臓弁膜症
- ・心臓以外の動脈硬化性病变（下肢、腹部、腎動脈、頸動脈など）・大動脈疾患（動脈瘤、解離性動脈瘤、高安病など）
- ・大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）
- ・不整脈疾患（ペースメーカー、植え込み型除細動器、カテーテルアブレーション）など ※循環器疾患であれば、ほぼすべてに対応が可能。

□虚血性心疾患治療（狭心症・心筋梗塞）

経皮的冠動脈形成術は、一定の頻度で、もう一度血管が狭くなる再狭窄との戦いでした。風船（バルーン）による治療を行っていた時代では、30～40%の方で再狭窄を認めていましたが、ステントを用いることで、20%程度となっています。さらに、ステントに薬剤でコーティングを行った、薬剤溶出性ステント（DES）では、再狭窄率は10%以下となりました。



□弁膜症

今までは外科治療でしか治療できなかった疾患に対してカテーテル治療ができるようになりました。大動脈弁狭窄症に対する「TAVI」は年間約200例ほど行っており、2019年には通算700例を達成しました。また2018年4月から保険償還された僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術も導入しています。



□頻脈性不整脈

- ・WPW症候群・房室結節回帰性頻脈・心房頻拍
- ・心房粗動・心房細動および心室頻拍

不整脈を起こす原因となっている異常な電気興奮の発生箇所を焼き切るカテーテルアブレーションを行っています。アブレーション治療用のカテーテルを太ももの付け根から血管を通じて心臓に挿入し、カテーテル先端から高周波電流を流して焼灼することで、不整脈を根治します。2018年には1,162例を行っており、九州では最多の施設となっています。



□徐脈性不整脈

- ・洞不全症候群
- ・房室ブロックおよび徐脈性心房細動

2017年にリードレスペースメーカを導入しました。カプセル型で本体を皮下に植え込むのではなく、直接心壁に取り付けられ、先端の電極を通じて電気刺激を送りペースングを行います。リードレスペースメーカは、このような皮下ポケットもリードも不要なため、それらに関連した合併症のおそれがありません。胸部の傷もなく、外からは装置のふくらみもないため、装置を意識することなく生活できます。



□下肢閉塞性動脈硬化症

当院では末梢血管ステントグラフトと薬剤コーティングバルーンカテーテルを導入しています。末梢血管ステントグラフトはこれまで外科的バイパス術が中心に行われてきた長区域の狭窄・閉塞病変において、新たな血管内治療を可能にするデバイスとして注目されています。薬剤コーティングバルーンカテーテルはステントの変形や破損といった機械的合併症の可能性を伴わない「異物を残さない」治療を実現するデバイスです。



■実績件数〔2022年〕

PCI	1,697	末梢血管治療	716	TAVI通算	2,121
カテーテルアブレーション	989	SHD治療	500		



副院長 主任部長 安藤 献児

- Profile
- 京都大学臨床教授
 - 日本内科学会 総合内科専門医 指導医
 - 日本循環器学会 専門医
 - 日本心血管インターベンション治療学会 専門医
 - 植え込み型除細動器・ペースメーカーによる心不全治療 登録医
 - 日本不整脈心電学会 専門医
 - 経皮的リード除去術者認定
 - 外国人医師臨床修練指導医
 - ヨーロッパ心臓病学会 特別正会員
 - 日本心臓リハビリテーション学会
 - 日本心不全学会
 - 日本高血圧学会
 - 日本心臓病学会

〔専門分野〕

循環器一般、冠動脈インターベンション、ペースメーカー・植え込み型除細動器・心臓再同期療法。冠動脈インターベンションは延吉正清名誉院長に研修医時代から長くに亘りご指導頂きました。また、植え込み型除細動器・心臓再同期療法の分野では日本をリードする立場にあると自負しています。

部長 白井 伸一

- Profile
- 日本内科学会 総合内科専門医 指導医
 - 日本循環器学会 専門医
 - 日本心血管インターベンション治療学会 専門医
 - Valve委員 SHD委員 ASR/PFO特命委員
 - 日本経カテーテル心臓弁治療学会 (JTVT) TAVR実施医・指導医
 - 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定術者
 - 経皮的房中隔欠損閉鎖術認定術者
 - 左心耳閉鎖術 (Watchman) トレーニング受講終了
 - Structure Club Japan 理事
 - 日本経カテーテル心臓弁治療学会 理事 指導医
 - PCR Tokyo Valves program committee
 - 日本心血管脳卒中学会 学術評議員
 - 日本集中治療医学会
 - TAVIプロクター

〔専門分野〕

冠動脈インターベンションも行いますが現在は大動脈弁狭窄症、心房中隔欠損、僧帽弁狭窄症などのStructural Heart Interventionを専門としています。特に大動脈弁狭窄症にたいしての経カテーテル大動脈弁植込み術は大腿部アプローチの術者をしております。



部長 兵頭 真

- Profile
- 日本内科学会 総合内科専門医 指導医 ●日本循環器学会 専門医
 - 日本心血管インターベンション治療学会 専門医
 - 植え込み型除細動器・ペースメーカーによる心不全治療 登録医
 - 経皮的リード除去術者認定 ●日本不整脈心電学会
 - 指定航空身体検査医 ●日本心臓リハビリテーション学会



部長 道明 武範

- Profile
- 日本内科学会 総合内科専門医 認定医
 - 日本循環器学会 専門医
 - 日本心血管インターベンション治療学会 専門医
 - 日本動脈硬化学会
 - 麻酔科標榜医



部長 磯谷 彰宏

- Profile
- ヨーロッパ心臓病学会成人経胸壁心エコー図 専門医
 - ヨーロッパ心臓病学会成人経食道心エコー図 専門医
 - ヨーロッパ心不全学会 心不全専門医 ●日本周術期経食道心エコー 認定医
 - 日本内科学会 認定医 ●日本循環器学会 専門医
 - 日本心血管インターベンション治療学会 ●日本超音波医学会
 - 日本心エコー図学会 心エコー図認証医 心エコー図専門医 ●日本心不全学会



部長 曾我 芳光

- Profile
- 日本内科学会 総合内科専門医 指導医 ●日本循環器学会 専門医
 - 日本心血管インターベンション治療学会 専門医
 - 日本心臓リハビリテーション学会 指導士
 - アメリカ心臓病学会特別正会員 (FACC)
 - 日本不整脈心電学会

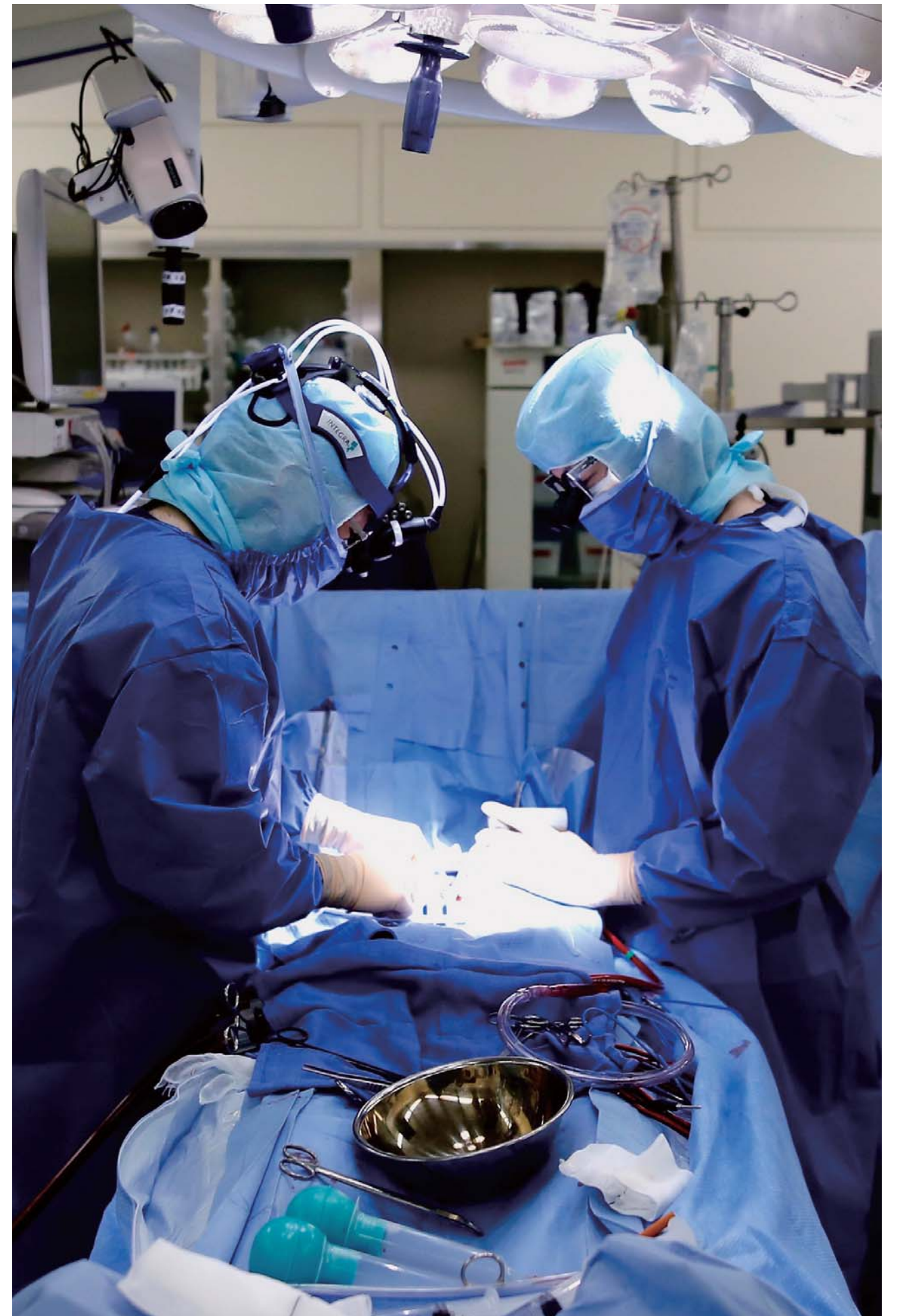


部長 廣島 謙一

- Profile
- 日本内科学会 認定医
 - 日本循環器学会 専門医
 - 日本不整脈心電学会 専門医 評議員
 - アブレーション委員会委員 合併症調査部会
 - 経皮的リード除去術者認定

国内トップレベルの 症例数

1973年の心臓血管外科開設以来、総開心術症例は2016年1月に15,000例を超え、国内有数の症例数を有する施設として順調に発展してまいりました。年間740例を超える手術件数は、全国でもトップレベルの症例数となっています。2008年秋から大動脈瘤に対するステントグラフト治療や、2013年10月から重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)といった患者さんの負担が少ない治療も積極的に行っています。成人の心臓・大動脈疾患、末梢血管手術すべてに対応可能です。



- ・虚血性心疾患 ・弁膜症 ・心房細動に対する外科治療・胸部大動脈瘤 ・大動脈解離
- ・腹部大動脈瘤 ・末梢血管 ・胸部および腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療など
- ・大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術 (TAVI)

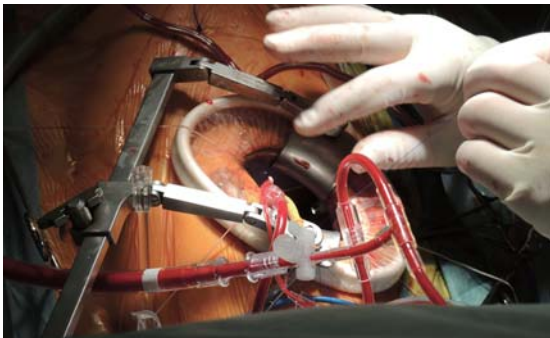
□虚血性心疾患

当院では2000年から人工心肺装置を用いず、スタビライザーと言う器具を、冠動脈の走行する心臓表面に固定して拍動を抑えて血管縫合する「心拍動下冠動脈バイパス術」を導入しました。単独冠動脈バイパス手術の95%以上で行っております。以前では手術適応にならなかった高度の脳血管障害を有する患者さんや、ご高齢の患者さんにも低侵襲で手術が行えるようになり、7日から10日での早期退院も可能となりました。



□弁膜症

当院では切開する範囲を最小限にとどめる低侵襲心臓手術「MICS(ミックス)」を行っています。この手術は乳房の下を5-7cm切開して肋骨の隙間より心臓の手術を行います。胸骨を切らないため、出血が少なく、傷の感染のリスクもほとんどありません。早期リハビリが可能となり、早期社会復帰が可能になります。傷が小さく美容面にも大変優れており、特に女性では、傷口が乳房に隠れる、ほとんど見えなくなるため、非常に満足度の高い手術です。



□大動脈瘤

弓部大動脈瘤に対する人工血管置換術

頭部に血液を送る血管が枝分かれする弓部大動脈の動脈瘤の手術は、未だリスクが高いとされています。一般的には全身の血液の流れを一時的に止める循環停止法で手術を施行します。その際、体温を20℃に下げて行う施設が多いのですが、当院では25～28℃にとどめることで、患者さんの身体の負担が軽減され、高齢の患者さんの手術も比較的安全に行えるようになりました。

胸部大動脈瘤に対するステントグラフト治療

2008年秋から「ステントグラフト治療」という新しい治療が保険適応となり、当院でも本格導入いたしました。ステントグラフト治療とは、特殊な金属ステントの人工血管を折り畳んでシースと呼ばれる管に充填し、このシースを瘤のある胸部大動脈まで誘導して折り畳んだ人工血管をシースから大動脈内に押し出して瘤への血流を遮断する治療です。この治療により、患者さんの負担はかなり軽減され、早期退院・早期社会復帰が可能となりました。

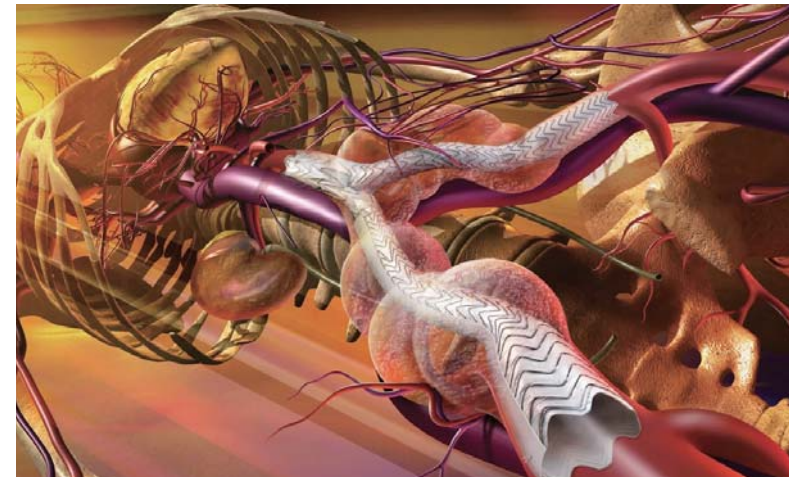
腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療

通常の人工血管置換術の困難な腹部・腸骨動脈に対して、低侵襲な治療としてステントグラフト治療をおこなっています。腹部大動脈瘤破裂など緊急を要する疾患に対しても、24時間心臓血管外科医が病院内に待機しており迅速な対応を行っています。また2018年からは2泊3日の入院期間で行うステントグラフト治療を開始しました。

胸部大動脈瘤に対するステントグラフト治療



腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療



■実績件数〔2022年〕

冠動脈バイパス術	95	先天性手術	6
弁膜症手術	208	その他の開心術	21
胸部大動脈置換手術	131	腹部大動脈置換術	36
胸部大動脈ステントグラフト手術	49	腹部大動脈ステントグラフト手術	39



主任部長 大野 暢久

Profile

- 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構
心臓血管外科専門医 修練指導医
- 日本外科学会 認定医 専門医 指導医
- 日本胸部外科学会 指導医 正会員 評議員
- 日本循環器学会
- 日本小児循環器学会
- 日本心臓血管外科学会
- 日本心臓弁膜症学会
- 日本低侵襲心臓手術学会
- 日本脈管学会
- 関西胸部外科学会

〔専門分野〕

弁膜症、大動脈瘤、狭心症や心筋梗塞など、成人の心臓と大血管の外科治療が専門です。低侵襲心臓手術にも力を入れています。



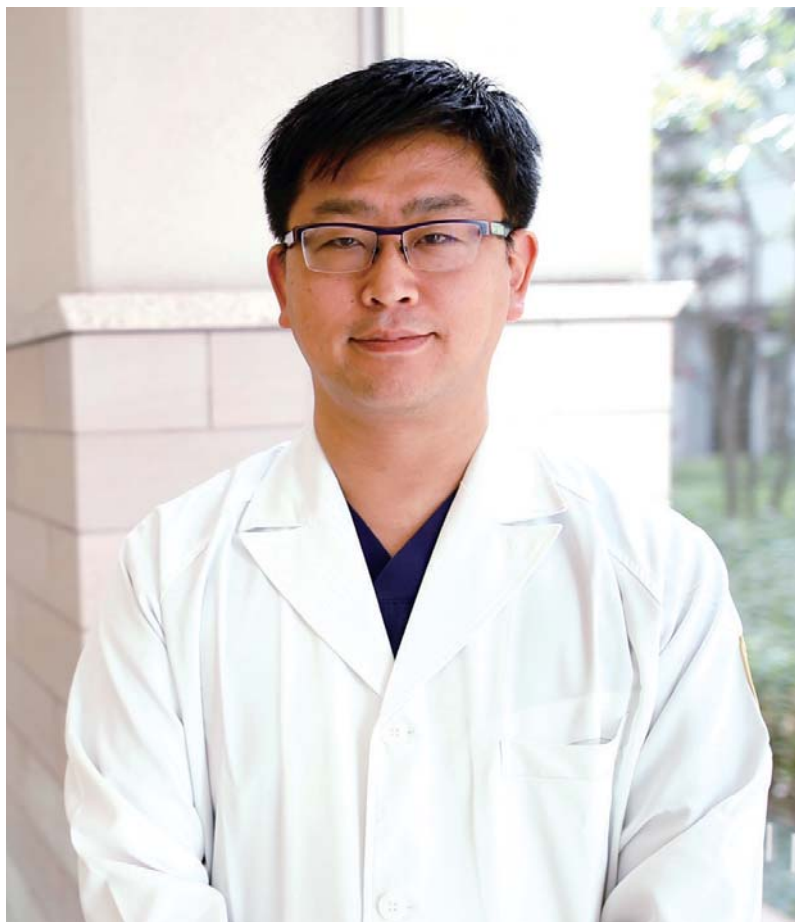
副部長 岡田 達治

Profile

- 日本心臓血管外科学会 専門医
- 日本外科学会 専門医
- 日本胸部外科学会

〔専門分野〕

虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患を含めた心臓血管外科全般に取り組んでいます。



部長 長澤 淳

Profile

- 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構
心臓血管外科 専門医
- 日本外科学会 専門医
- 日本胸部外科学会
- 日本血管外科学会
- 日本冠動脈外科学会
- 日本心臓血管外科学会

〔専門分野〕

虚血性心疾患、弁膜症、急性大動脈解離、胸部・腹部大動脈瘤など成人心臓血管手術全般を専門としています。



副部長 坂本 和久

Profile

- 心臓血管外科 専門医
- 日本外科学会 専門医
- 日本血管外科学会 血管内治療認定医
- 日本経カテーテル心臓弁治療学会（JTVT）
TAVR実施医
- 胸部大動脈瘤ステントグラフト 指導医
- 腹部大動脈瘤ステントグラフト 指導医
- 浅大腿動脈ステントグラフト実施医
- 日本心臓血管外科学会
- 日本胸部外科学会
- 日本循環器学会
- 欧州心臓胸部外科協会

〔専門分野〕

成人心臓大血管手術全般。小切開手術、大動脈ステントグラフト内挿術、経カテーテル大動脈弁留置術。大阪で約10年標準的な心臓、大血管の手術を執刀経験させていただいた後、京都大学では大動脈の複雑症例も数多く経験させて頂きました。低侵襲手術から拡大手術まで患者さんの状態に合わせて対応します。



患者さんにとって 最適な 血管治療を実施

血管外科では、腹部および四肢における動脈疾患および静脈疾患に対する診療を行っています。特に下肢の閉塞性動脈硬化症に対する治療では日本有数の血行再建（下肢動脈バイパス術）症例数があり経験豊富な医師が診療に当たっています。近年血管内治療（カテーテル治療）が急速に進歩しており、これを主に行っている循環器内科と密に連携を図り、患者さんにとって最適な治療方針を決定しています。腹部大動脈瘤の治療においてはステントグラフト内挿術（腹部を切らずに治療する方法）をいち早く導入し、腹部大動脈瘤手術のうち60%以上がステントグラフト治療になっています。静脈疾患でも下肢静脈瘤に対するレーザー治療など最新の治療を導入していますが従来のストリッピング手術も行っており、個々の患者さんの状態に合わせた最適な治療法を選択しています。

〔心臓血管病センター〕

血管外科

〔取り扱う主な疾患〕・腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤・大腿動脈瘤・膝窩動脈瘤・閉塞性動脈硬化症・バージャー病・下肢静脈瘤など



主任部長 岡崎 仁

Profile

- 日本外科学会 認定医・専門医・指導医
- 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構 専門医 修練指導医
- 日本脈管学会認定 脈管専門医
- 腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医
- 日本血管外科学会 評議員
- 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医
- 日本心臓血管外科学会 評議員



部長 田中 潔

Profile

- 日本外科学会 認定医・専門医
- 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構 専門医
- 日本脈管学会認定 脈管専門医
- 日本血管外科学会 血管内治療認定医
- 日本静脈学会
- 腹部大動脈ステントグラフト 指導医
- 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による指導医

〔主な疾患と治療法〕

□下肢閉塞性動脈硬化症

内科的治療と危険因子コントロール

下肢の血流改善のための内服薬投与、運動療法による側副血行路（つまったところを迂回する血流の脇道）を促すことにより、軽症例であれば多くの患者さんは症状が改善します。

血行再建術

外科的血行再建には動脈バイパス手術や血栓内膜摘除が含まれます。血管内治療はバルーン血管拡張術やステント留置術があり、循環器内科と協議して最適な治療法を選択しています。

□腹部大動脈瘤

開腹人工血管置換術

こぶになった大動脈を合成繊維でできた人工血管にとりかえる手術です。開腹手術を行いますので体にかかる負担は大きいですが、追加治療がほとんど必要ない着実な手術法です。

ステントグラフト内挿術

大動脈瘤内にパイプ状の人工血管を差し込んで固定し、弱くなった大動脈壁に直接圧がかからないようにする方法です。開腹しないため、体にかかる負担が小さいのが利点です。

□下肢静脈瘤

ストリッピング手術

静脈瘤の原因となっている伏在静脈を切除する方法です。下半身麻酔で1cm程度の傷が3～5箇所程度につきます。手術にかかる時間は片足30分程度です。

血管内レーザー焼灼術

静脈瘤の原因となっている伏在静脈を切除する代わりに、レーザーで血管内を焼いて詰まらせる方法です。局所麻酔で行い、日帰り手術が可能です。

■実績件数〔2022年〕

腹部大動脈瘤ステントグラフト	37
腹部大動脈瘤開腹人工血管置換	21
下肢虚血腸骨動脈領域	0
下肢虚血大腿膝窩動脈領域	16

下肢虚血下腿・足部バイパス	3
下肢虚血その他血行再建	11
静脈瘤ストリッピング	28
静脈瘤レーザー治療	33

透析シャント手術	2
下肢大切断	19
その他	68

脳と命を守る 高度専門・救急体制

九州でもっとも早く、1966年に開設された脳神経外科である当科は、外科治療全般にわたって豊富な診療実績を積み重ねてきました。国内有数の治療実績を誇る脳血管内治療は、最新設備の脳血管内治療ユニットで最先端の治療ができる体制を整えています。脳卒中センターでは、ストロークケアユニットを中心に、神経内科と連携しながらチーム医療を行っており、北九州市機能別救急医療体制における脳神経外科応需施設として24時間、365日、常に緊急手術、緊急治療を行うことができます。



脳神経外科

〔取り扱う主な疾患〕

- ・脳血管障害 出血性疾患：クモ膜下出血（破裂脳動脈瘤）、未破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、脳内出血など
閉塞性疾患：脳梗塞、一過性脳虚血発作、頭頸部主幹動脈狭窄・閉塞症（頸動脈狭窄症、椎骨動脈狭窄症、鎖骨下動脈狭窄症など）、頭蓋内動脈狭窄・閉塞症、もやもや病（ウィリス動脈輪閉塞症）など
- ・脳腫瘍 良性脳腫瘍：髄膜腫、下垂体腺腫、神経鞘腫を含むすべての良性腫瘍
悪性脳腫瘍：神経膠腫、転移性脳腫瘍を含むすべての悪性腫瘍
- ・脊髄脊髄疾患 頸椎症、頸椎・腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、後縦靱帯骨化症、脊髄腫瘍など
- ・機能的疾患 顔面痙攣症、三叉神経痛など ・頭部外傷全般 ・正常圧水頭症

□脳梗塞

脳梗塞の血管内治療は、カテーテルという細い管を足の血管から挿入して、頭の中の脳血管へ進め、血管を塞いでいる血栓を回収し、閉塞した脳血管を再開通させます。脳梗塞超急性期の脳血管内治療は、手技的複雑さや脳の脆弱さのために、冠動脈疾患における血管内治療と比べて開発が遅れていましたが、近年になり専門の脳動脈血栓回収機器が開発され、治療効果を高めています。動画はステント（網目の筒）を血栓にめり込ませ、血栓を網目に絡めつつ取り除く機器で、当院で最も多い血管内治療方法となっています。

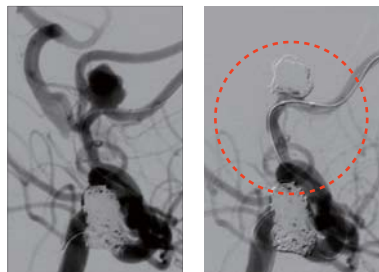


□くも膜下出血

種々の臨床研究で示された結果に基づき、当科では破裂脳動脈瘤の再出血予防の外科治療の第一選択として脳血管内手術を行っています。症例によっては従来の治療が優れているため、クリッピング手術を選択することもあります。診療体制においては緊急対応が重要ですが、当院脳卒中センターでは院内の緊密な連携により迅速な診断、治療を達成しています。重篤かつ予後不良な疾患ではありますが、積極的な全般的治療により総じて良好な治療成績が得られています。



くも膜下出血コイル塞栓症例



術前

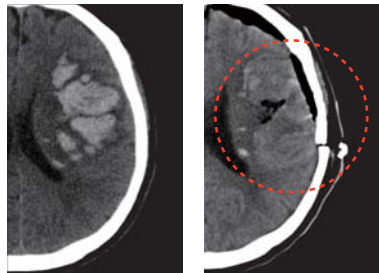
術後

□脳出血

内科治療に加えて、必要に応じて外科治療を選択することもあります。脳卒中ガイドラインに基づき、血腫の大きさ、部位、年齢、神経所見、全身状態などを考慮して決定しています。抗血小板薬と抗凝固薬を複数内服している時には血腫増大のリスクが高く、緊急手術での止血操作にも困難が指摘されています。当科では抗凝固薬内服中に発症した脳出血に対しては、献血由来の凝固因子製剤を投与しています。これにより血腫の増大が予防でき、予後不良を減少させることができます。



脳出血の血腫除去症例



術前

術後

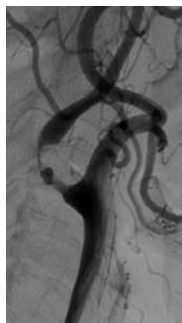
□未破裂脳動脈瘤

10mmを超える大型な脳動脈瘤に対する新しい治療方法が、フローダイバーターステントによる血管内治療です。非常に網目の細かい金属メッシュのステントを脳動脈瘤の入り口を覆うように血管の中に留置し、脳動脈瘤内への血液流入を減らすことで、脳動脈瘤内の血液が血栓化して脳動脈瘤そのものを縮小させてしまう方法です。この治療では、多くの患者様で脳動脈瘤自体を触らずに治療を行うことができます。



□頸動脈狭窄症

当院は頸動脈狭窄症の治療を本邦で最も多く扱う施設の一つであり、現在までに、頸動脈プラーク性状に基づく治療方針決定、薬剤によるプラーク安定化などの研究を行ってきました。近年では、頸動脈狭窄症における長期転帰に関する研究なども高い評価を受けております。その他にも、今なお治療困難な急性脳主幹動脈閉塞の病態および形態に基づいた脳血管内治療方法の検討、抗血栓療法内服中の脳出血症例での凝固因子投与の効果、穿刺部合併症の危険因子など多くの研究を行っており、学会発表や論文において高い評価を受けています。



術前



術後

■実績件数〔2022年〕

開頭手術	脳動脈瘤（クリッピング）	27
	脳動静脈奇形	1
	頭蓋内出血	13
	頸動脈内膜剥離術（CEA）	14
	頭蓋内外血行再建（もやもや病）	5
	頭蓋内外血行再建（閉塞性疾患）	8
	深部吻合	3
	脳腫瘍	41
	神経減圧術	4

神経内視鏡手術		8
穿頭術		59
シャント手術		21
脳血管内手術	脳動脈瘤（コイル、フローダイバーター）	134
	内頸動脈ステント留置術（CAS）	29
	脳動静脈奇形	2
	脳腫瘍	6
硬膜動静脈瘻		6
脳動脈瘤治療	開頭手術＋血管内手術	161



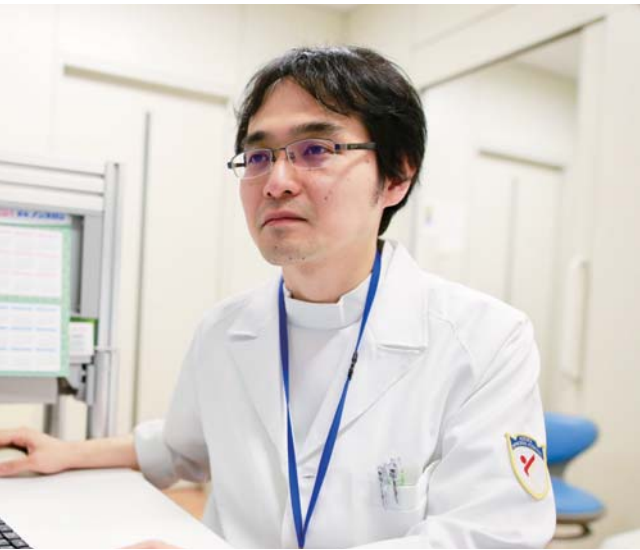
脳卒中センター長 主任部長 波多野 武人

Profile

- | | |
|------------------------|-----------------|
| ●京都大学医学部臨床教授 | ●日本神経内視鏡学会技術認定医 |
| ●京都大学 医学博士 | ●日本脳卒中の外科学会 |
| ●日本脳神経外科学会 指導医 専門医 代議員 | 技術指導医 代議員 |
| ●日本脳卒中学会 指導医 専門医 幹事 | ●日本心血管脳卒中学会 評議員 |
| ●日本脳神経血管内治療学会 指導医 専門医 | ●日本脳神経外科コンgres |
| 九州地方会幹事 | |

〔専門分野〕

脳卒中（脳梗塞やクモ膜下出血）の原因となる脳血管障害を最も得意としますが、脳腫瘍、外傷、顔面痙攣に対する機能的外科など脳神経外科の多くの分野で最善の治療が提供できるよう研鑽を積んでまいりました。当科は充実した検査・治療機器に加え、医師のみではなく患者さんに関わる全てのスタッフがより良い治療を提供すべく日々努力を重ね、特に脳卒中においては国内で最も信頼される施設の一つに成長しています。



副部長 小倉 健紀

Profile

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ●日本脳神経外科学会 指導医 専門医 | ●日本内視鏡学会 |
| ●日本脳神経血管内治療学会 指導医 専門医 | ●日本間脳下垂体腫瘍学会 |
| ●日本脳卒中学会 指導医 専門医 | ●ISLS認定ファシリテーター、コーディネーター |
| ●日本再生医療学会 認定医 | ●日本脳神経外科コンgres |
| ●日本脳卒中の外科学会 認定医 | ●医学博士 |
| ●日本再生医療学会 | ●日本頭痛学会 |

〔専門分野〕

脳血管障害から頭部外傷、脳腫瘍まで、脳神経外科全般に広く対応していますが、特に脳血管内治療に関しては、多くの研鑽を積んでまいりました。また、神経疾患に対する神経再生治療の発展の必要性を強く感じ、同分野の基礎的研究にも携わってきました。



副部長 宮田 武

Profile

- | | |
|--------------------|-----------------|
| ●京都大学医学博士 | ●日本脊髄外科学会 |
| ●日本脳神経外科学会 指導医 専門医 | ●日本脳神経外科コンgres |
| ●日本脳神経血管内治療学会 専門医 | ●日本微小脳神経外科解剖研究会 |
| ●日本脳卒中学会 専門医 | ●日本頭蓋底外科学会 |
| ●日本脳卒中の外科学会 | ●日本間脳下垂体腫瘍学会 |
| ●日本神経内視鏡学会 | |

〔専門分野〕

脳血管障害を中心にこれまで有数の施設で研鑽を積んで参りました。また、脳神経外科医として日常診療で対応させて頂く事の多い未破裂脳動脈瘤に対し、病態解明を目指した基礎研究、および臨床研究に従事していました。低侵襲な脳血管内治療に加え、必要な病変に対して求められる確実な直達手術、頭蓋底外科手術の研鑽を継続して参ります。



副部長 阿河 祐二

Profile

- | | |
|--------------------|----------------|
| ●日本脳神経外科学会 専門医 指導医 | ●日本心血管脳卒中学会 |
| ●日本脳神経血管内治療学会 専門医 | ●日本神経内視鏡学会 |
| ●日本脳卒中学会 | ●日本脳神経外科コンgres |
| ●日本脳卒中の外科学会 | ●日本脳神経外傷学会 |

〔専門分野〕

脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳卒中、脳動脈瘤・頸動脈狭窄・脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘤などの脳血管障害、髄膜腫・神経鞘腫・神経膠腫などの脳腫瘍、頭部外傷といった一般的な脳神経外科疾患全般に対応しています。カテーテルを使用する脳血管内手術、顕微鏡などを使用する開頭手術を行っています。

脳血管障害から 神経変性疾患まで 的確な診断・最新治療を

脳神経内科では、頭痛、めまい、ふるえ、物忘れ、など脳・神経・筋肉の日常よくある病気を診療しています。特に脳梗塞や脳出血などの脳血管障害を得意としますが、パーキンソン病、認知症など神経変性疾患も診断しております。このような症状にお悩みの方はどうぞかかりつけ医の紹介状を持ってご予約ください。

〔脳卒中センター〕

脳神経内科

[取り扱う主な疾患]

- ・脳血管障害（脳梗塞、脳出血）
- ・機能的疾患（てんかん、頭痛、めまい）
- ・中枢神経感染症（髄膜炎、脳炎）
- ・神経変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症）
- ・神経免疫疾患（ギランバレー症候群、CIDP、重症筋無力症、多発性硬化症、視神経脊髄炎）

※線維筋痛症は未対応です。



■主な疾患と治療法

□脳梗塞

脳の血管が閉塞して脳細胞が死滅する病気です。発症4.5時間以内であれば、rt-PAという注射薬で血管内の血栓を溶かして血流を回復させる、血栓溶解療法が受けられる可能性があります。当院脳卒中センターでは速やかな治療ができるよう脳卒中スクランブル体制を整備して24時間365日対応しています。さらに脳神経外科と協力して、必要に応じて最先端の脳血管内治療まで行なっています。

□認知症

認知障害を呈するWernicke脳症や慢性硬膜下血腫などの治療可能な疾患をまずは鑑別する必要があります。その上で、アルツハイマー型認知症、レヴィ小体型認知症、前頭側頭型認知症、脳血管性認知症などの鑑別をします。最近注目されているレヴィ小体型認知症の鑑別に、当院では最新のダットスキャンも可能です。診断結果に合わせた薬物療法を行います。

□パーキンソン病

パーキンソン病は脳内の神経伝達物質であるドパミンが減少する病気です。表情が乏しくなるため、うつ病や認知症と間違えられていることもあります。当院では、診察だけでなくMIBG心筋シンチグラフィや最新のダットスキャン検査も受けることができ、早期診断が可能となっております。治療はまずは薬物療法を行います。体操やリハビリテーションは運動機能の保持に有用です。

□ギラン・バレー症候群

感染を契機として自己免疫が刺激されて起こる末梢神経障害とされています。ときに重症化して人工呼吸器管理を要することもあります。的確な早期診断と早期治療が重要です。当院では、緊急入院して速やかな免疫グロブリン静注による治療が可能となっております。

□てんかん

大脳皮質の異常な放電により痙攣などを来す病気です。薬物療法は、発作病型に合わせて処方することが重要です。当院では頭部MRI、脳波検査など受けることができます。また最近では認知症とされている患者さんの中に、実はてんかん発作であった人がいたということが注目されています。新しい抗てんかん薬も出ておりますので、身体への負担が少ない医療を目指しております。難治性てんかんの場合や外科手術が必要な場合は、専門機関へご紹介も致します。

□筋萎縮性側索硬化症

運動神経が変性して全身の筋肉が萎縮する難病です。日本には1万人ほど患者さんがいると言われています。当院では入院精査によって除外診断を行います。診断後には薬物治療を行います。これまでの薬物療法は、神経毒性を有するグルタミン酸を抑制するリルゾールの内服のみでした。当院ではさらに、比較的軽度なALS患者さんに対しては、エダラボン（2015年日本・韓国、2017年米国FDAでALSに承認）の外来点滴も行っています。ぜひご相談ください。



部長 白石 渉

Profile

- 日本内科学会 認定医 総合内科専門医
- 日本神経学会 専門医
- 日本脳卒中学会 専門医 指導医
- 日本神経治療学会
- 日本頭痛学会 指導医 専門医
- 日本難病医療ネットワーク学会
- 日本認知症学会 専門医 指導医
- 日本尊厳死協会 LW受容協力医師
- 日本禁煙学会 認定指導者
- 日本医師会 認定産業医
- 日本プライマリ・ケア連合学会 指導医
- 日本温泉気候物理医学会 認定温泉療法医
- 日本抗加齢医学会

■実績件数 [2022年度]

脳梗塞	78
脳出血	22
くも膜下出血	2
TIA	3
てんかん	13
ギランバレー	8
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	24
髄膜炎	5
脳炎	1
その他	60

抗血栓療法や
複数疾患を抱える
重症度の高い
がん疾患に対応

当科では、複数疾患を抱え重症度の高い患者さんへの豊富な治療実績をもとに、致命的な梗塞性合併症の発症を最小限に抑える安全な周術期管理と手術手技を確立・実践しており、これらハイリスクな患者さんに対しても専門性の高い低侵襲外科治療を提供しています。

〔取り扱う主な疾患〕

・消化管外科
食道癌、胃癌、大腸癌、直腸癌、
消化管間葉系腫瘍（GIST）、胃食道静脈瘤、
潰瘍性大腸炎、クローン病

・肝胆脾臓外科
原発性肝細胞癌、肝内胆管細胞癌、
転移性肝癌、肝門部胆管癌、中部胆管癌、
脾内胆管癌、胆嚢癌、十二指腸乳頭部癌、
膵臓癌、嚢胞性膵腫瘍、慢性膵炎、肝内結石症、
総胆管結石症、胆嚢結石症、
摘脾の対象疾患（特発性血小板減少性紫斑病、
バンチ氏病、インターフェロン治療目的など）

・乳腺外科、内分泌外科
乳癌、乳腺葉状腫瘍、副腎腫瘍、褐色細胞腫、
傍神経節腫

・一般外科
腹壁癒痕ヘルニア、鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア、
痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍、肺ブラ

・腹部領域疾患救急
腸閉塞（イレウス）、腸間膜梗塞、
胃潰瘍十二指腸潰瘍穿孔、穿孔性大腸憩室炎、
各種原因による腹膜炎、急性胆嚢炎、急性膵炎、
急性虫垂炎 など



主任部長 藤川 貴久

- Profile
- 日本外科学会 指導医 専門医 認定医
 - 日本消化器外科学会 指導医 専門医 認定医
 - 消化器がん外科治療認定医
 - 日本肝胆脾外科学会 高度技能指導医 評議員
 - 日本内視鏡外科学会 技術認定医 評議員
 - 日本臨床腫瘍学会 指導医 がん薬物療法専門医
 - 臨床研修指導医
 - アメリカ外科学会フェロー
 - ロボット手術（ダビンチ）術者資格取得医
 - ロボット支援肝切除術（肝亜域切除以上）
ブロクター認定
 - 医学博士
 - 日本がん治療認定医機構認定医 暫定教育医



部長 佐伯 俊宏

- Profile
- 日本外科学会 専門医
 - 日本消化器外科学会 認定医
 - 日本乳癌学会 認定医
 - 日本乳癌検診学会 認定医
 - 日本内視鏡外科学会
 - 日本臨床外科学会
 - 日本乳がん検診精度管理中央機構
検診マンモグラフィ読影認定医
 - 臨床研修 指導医
 - 医学博士



部長 河村 祐一郎

- Profile
- 日本外科学会 専門医 指導医
 - 日本消化器外科学会 指導医 専門医 認定医
消化器がん外科治療認定医
 - 日本内視鏡外科学会 技術認定医 評議員
 - 日本食道学会 食道科認定医
 - 日本胃癌学会
 - ロボット手術術者資格取得医
 - 医学博士



部長 永田 好香

- Profile
- 日本外科学会 専門医 指導医
 - 日本乳癌学会 専門医 指導医
 - 日本癌治療認定医機構 暫定教育医 認定医
 - 日本温泉気候物理医学会 温泉療法医
 - 日本乳癌検診学会
 - 日本癌学会
 - 日本臨床外科学会
 - 日本クリニカルバス学会
 - 日本乳がん検診精度管理中央機構
検診マンモグラフィ読影認定医
 - 乳がん検診超音波検査実施医
 - 臨床研修 指導医 ●医学博士



部長 小島 大望

- Profile
- 日本外科学会 指導医 専門医
 - 日本消化器外科学会 専門医
 - 日本内視鏡外科学会 技術認定医（大腸）
 - ロボット手術術者資格取得医
 - 日本大腸肛門病学会
 - 日本炎症性腸疾患学会
 - 医学博士

実績件数 [2022年]	
食道癌	4
胃癌、胃腫瘍	47
結腸癌、直腸癌、小腸癌	122
胆道癌（胆管、胆嚢、乳頭部癌）	9
肝臓癌（原発性、転移性）	43
膵臓癌、嚢胞性膵腫瘍、膵疾患	22
胆石症、胆嚢炎	126
膵臓疾患	2
副腎、後腹膜腫瘍	1
腸閉塞、腹膜炎、腸間膜梗塞	42
虫垂炎	22
ヘルニア	117
炎症性腸疾患、肛門疾患	2
乳癌、乳腺疾患	73
CVポート留置	47
その他（リンパ節生検、 他科との共同手術）	78

〔消化器病センター〕

消化器内科

〔取り扱う主な疾患〕

【食道病変】

(良性疾患)食道静脈瘤、食道ポリープ、逆流性食道炎、食道アカラシア、術後食道狭等
(悪性疾患)食道癌

【胃十二指腸病変】

(良性疾患)胃十二指腸潰瘍、胃十二指腸炎、急性胃十二指腸粘膜病変胃十二指腸ポリープ、
SMT(GIST、平滑筋腫など)、胃静脈瘤
(悪性疾患)胃癌、GIST、悪性リンパ腫

【大腸病変】

(良性疾患)炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)、大腸炎(感染性・虚血性腸炎、大腸憩室炎)、
イレウス、大腸ポリープ、直腸潰瘍・憩室出血等
(悪性疾患)大腸癌

【肝 病 変】

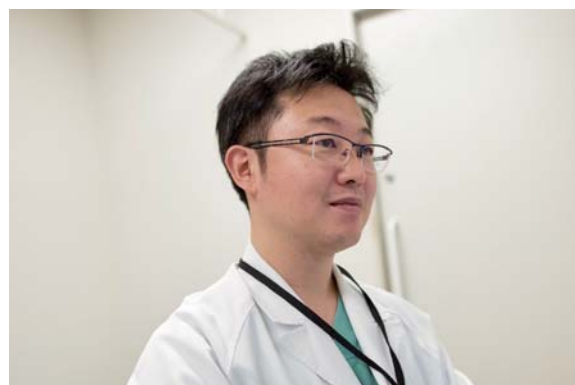
(良性疾患)急性・慢性肝炎(ウイルス性、自己免疫性、薬剤性、アルコール性)、肝硬変、肝不全等
(悪性疾患)肝臓癌・転移性肝癌

【胆・膵病変】

(良性疾患)総胆管結石、胆嚢結石、胆嚢炎、良性胆道狭窄、急性・慢性膵炎、膵嚢胞性病変等
(悪性疾患)胆道癌、膵癌など

治療内視鏡を積極的に実践

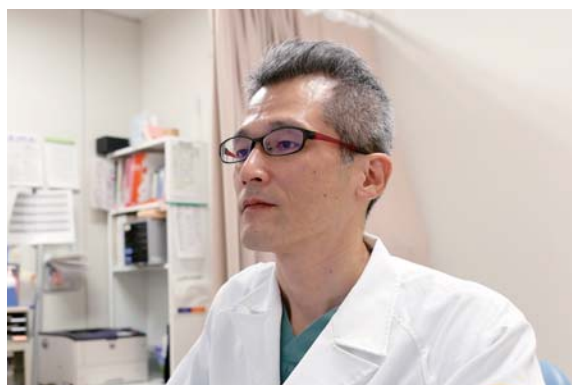
当科では治療内視鏡を積極的に行っており、その中でも生命予後に重大な影響がある消化管出血に対する内視鏡的止血術や、早期胃癌や早期食道癌、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術や内視鏡的粘膜切除術、総胆管結石に対する内視鏡治療、閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ステント留置などを胃切除術後の症例も含めて施行しています。肝臓疾患に対しては、B型およびC型慢性肝炎の抗ウイルス療法と、肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓術、経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)等を中心に施行しています。



主任部長 白井 保之

Profile

- 医学博士
- 日本内科学会 総合内科専門医 指導医 認定医
- 日本消化器病学会 専門医 指導医
- 日本消化器内視鏡学会 指導医 専門医 九州支部評議員
- 日本門脈圧亢進症学会 技術認定取得医 評議員
- 日本肝臓学会 専門医



部長 原田 克則

Profile

- 医学博士
- 日本内科学会 認定医
- 日本消化器病学会 専門医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医



部長 中嶋 哲也

Profile

- 医学博士
- 日本内科学会 認定医
- 日本消化器病学会 専門医
- 日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医 九州支部評議員
- 日本緩和医療学会 緩和ケア研修会指導者
- 日本胆道学会 ●日本緩和医療学会
- 日本膵臓学会

■実績件数 [2022年]

上部内視鏡検査	6,301
大腸内視鏡	2,174
内視鏡的膵胆管造影	345
内視鏡的止血術(上部)	135
大腸内視鏡治療 (ポリペクトミー、ESD)	755
内視鏡的粘膜切除術(ESD)	92
内視鏡的粘膜切除術(EMR)(上部)	19
食道胃静脈瘤硬化療法／結紮術	47
内視鏡的乳頭切開術(EST)	138
肝動脈造影	23
肝生検	14
ラジオ波焼灼療法(RFA)	7
EUS-FNA	46

〔腎センター〕
腎臓内科

〔取り扱う主な疾患〕

・急性・慢性腎不全 ・各種の免疫異常や家族性高コレステロール血症 ・維持透析患者の種々の合併症
・中毒などの血液浄化療法を必要とする病態など

ライフサイクルに応じ、全身血管病の視点からの腎臓病治療

腎機能に応じて、腹膜透析PD・血液透析HD・腎移植(九州大学腎移植チームと連携)といった治療の選択肢を提示できる、患者さんのライフスタイルに合わせた治療法を提供しています。慢性腎臓病は、狭心症、心筋梗塞などの虚血性心臓病や脳卒中、そして閉塞性動脈硬化症など全身血管病の共通の危険因子としてその予防や適切な治療が急務となっている領域でもありますので、腎臓病の治療の第一は全身管理と考え、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、血管外科など各診療科と協力しながら診療を行っています。腎代替療法に関して当科では、透析が必要となった際に腹膜透析PDからの開始を勧める「PDファースト」ポリシーを掲げています。当科では、2008年よりこの方針を取り、透析導入患者の40～50%は腹膜透析PDを選択され、2017年5月時点で、242名に外来腹膜透析PDを行っています。



副院長 主任部長 金井 英俊

Profile

- 日本内科学会 総合内科専門医 指導医
- 日本腎臓学会 認定医 専門医 指導医
- 日本透析医学会 指導医 専門医 評議員
- 日本腹膜透析医学会 評議員
- 医学博士
- 欧州腎臓学会
- アメリカ腎臓学会
- 国際腎臓学会
- 福岡県透析医会 会長

■実績件数 [2022年度]

血液透析	93
腹膜透析	58



部長 原田 健司

Profile

- 日本内科学会 総合内科専門医 指導医
- 日本腎臓学会 専門医 指導医
- 日本透析医学会 専門医 指導医
- VA血管内治療認定医
- 日本腹膜透析学会 認定医
- 国際腹膜透析学会

腎臓移植(紹介)	11
腎生検	110

血液透析シャント拡張術PTA	916
血液透析・腹膜透析関連アクセス手術	562

〔腎センター〕
泌尿器科

〔取り扱う主な疾患〕

・尿路腫瘍 ・副腎疾患(腹腔鏡手術など) ・尿路結石(体外衝撃波結石破砕術、内視鏡的結石破砕術など) ・腎移植
・血液浄化法(血液透析、腹膜透析、血漿交換、吸着) ・排尿障害(前立腺肥大症、神因性膀胱、尿失禁) など



患者さんとの信頼に根ざした
最新の医療を実施

尿路結石治療は、体外衝撃波結石破砕装置を導入以来、毎年200例前後の患者さんを治療しており、また衝撃波による治療が困難な症例に対しては、内視鏡的レーザー手術を行っています。腎疾患に関しても、腎臓内科との協力体制のもと、腎生検による早期診断、治療を行う一方、腎移植にも積極的に取り組んでいます。血液透析、CAPD(持続携帯式腹膜透析)に加え、血漿交換、吸着療法にも取り組んでいます。泌尿器腫瘍に対しては、診断から手術や薬物療法などの治療、さらに治療後の経過観察まで、一貫して専門的に行います。副腎腫瘍や腎癌・腎盂尿管癌・前立腺癌・膀胱癌に対しては、積極的に腹腔鏡手術を行っています。

■実績件数 [2022年度]

腎癌手術	47
開腹手術	3
腹腔鏡下腎摘除術・腹腔鏡下腎部分摘除術	21
ロボット支援下腎部分切除術	23
腎・尿管結石	87
経尿道的レーザー碎石術(TUL)	34
体外衝撃波結石破砕術	53

膀胱癌	164
-----	-----

前立腺	47
ロボット支援下前立腺全摘除術	28
ホルミウムレーザー前立腺核出術	19

部長 坂野 滋

Profile

- 日本泌尿器科学会 専門医 指導医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 泌尿器ロボット支援手術ブロッカー認定医
- ダ・ヴィンチ手術執刀医(Console Surgeon) 資格認定
- 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本内視鏡外科学会 技術認定医(泌尿器腹腔鏡)
- 日本透析医学会 専門医 指導医
- 米国泌尿器科学会(AUA) International Member
- 欧州泌尿器科学会(EAU) Active International Member
- 臨床研修指導医 ●医学博士
- 日本癌治療学会 ●身体障害者福祉法指定医

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

〔取り扱う主な疾患〕

・頭頸部癌・頭頸部良性腫瘍・慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎・喉頭機能疾患など



最先端設備を 駆使した高度な医療

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全域の疾患（人工内耳を除く）に対して、高度な医療を提供しています。頭蓋底から縦隔までの外科的治療を要する疾患に対して、最先端設備（NBI内視鏡、耳鼻科専用ナビゲーションシステムなど）を駆使し、診断および治療を行っています。超高齢者や抗血栓療法を中断できない方の手術の頻度が高く、麻酔科・循環器内科の厳しい管理が必要とされますが、精度の高い手術手技も要求されます。当科の手術は、必要最小限度の侵襲で余計な剥離や無意味な血管結紮を行わないよう心掛けており、血管ステント後の方や100歳の方を含め90歳以上の方の手術も積極的に行なっています。



部長 市丸 和之

Profile

- 日本耳鼻咽喉科学会 専門医
耳鼻咽喉科専門研修指導医
- 日本頭頸部外科学会 専門医 指導医
- 日本頭頸部癌学会
- 耳鼻咽喉頭科臨床学会
- 日本耳科学会
- 日本気管食道科学会
- 日本嚥下医学会

■実績件数〔2022年度〕

鼓室形成術	24	頭頸部良性腫瘍手術・その他手術	190
内視鏡下鼻副鼻腔手術	44	頭頸部癌手術	52

喉頭微細手術

17

婦人科

〔取り扱う主な疾患〕

・子宮平滑筋腫・卵巣の悪性腫瘍・子宮体部の悪性腫瘍・子宮頸部の悪性腫瘍・卵巣の良性腫瘍・女性性器脱など



合併症を持つ患者さんを積極的に治療

子宮、卵巣、膈など女性特有臓器の疾患を日本産科婦人科学会認定専門医2人が、入院、外来診療に当たっております。当院は、あらゆる疾患に対応できる総合病院ですので、透析患者さん、心臓病、糖尿病など種々の合併症をお持ちの方でも、婦人科治療を受けることができます。



部長 川越 俊典

Profile

- 日本婦人科腫瘍学会 専門医 指導医
- 日本産科婦人科学会 専門医 指導医
- 日本臨床細胞学会 細胞診専門医 指導医
- 日本癌治療学会
- 日本産婦人科内視鏡学会
- 日本内視鏡外科学会
- 日本婦人科がん検診学会
- 母子保護法指定医師

■実績件数〔2022年〕

子宮頸癌	0	子宮全摘術（うち腔式は9件）	38	粘膜下筋腫切除術、 内膜ポリープ切除術、内膜焼灼術	7
子宮体癌	4	開腹術 （筋腫核出術、卵巣腫瘍摘出術）	25	バルトリン腺腫摘出術、 外陰癒着剥離術	1
卵巣癌	5	腹腔鏡下手術	45		
外陰癌 他	0	円錐切除術、レーザー蒸散術	14		

眼科

【取り扱う主な疾患】

・網膜硝子体疾患 ・緑内障 ・加齢黄斑変性症 など眼科全般

質の高い視機能を保つ最先端医療

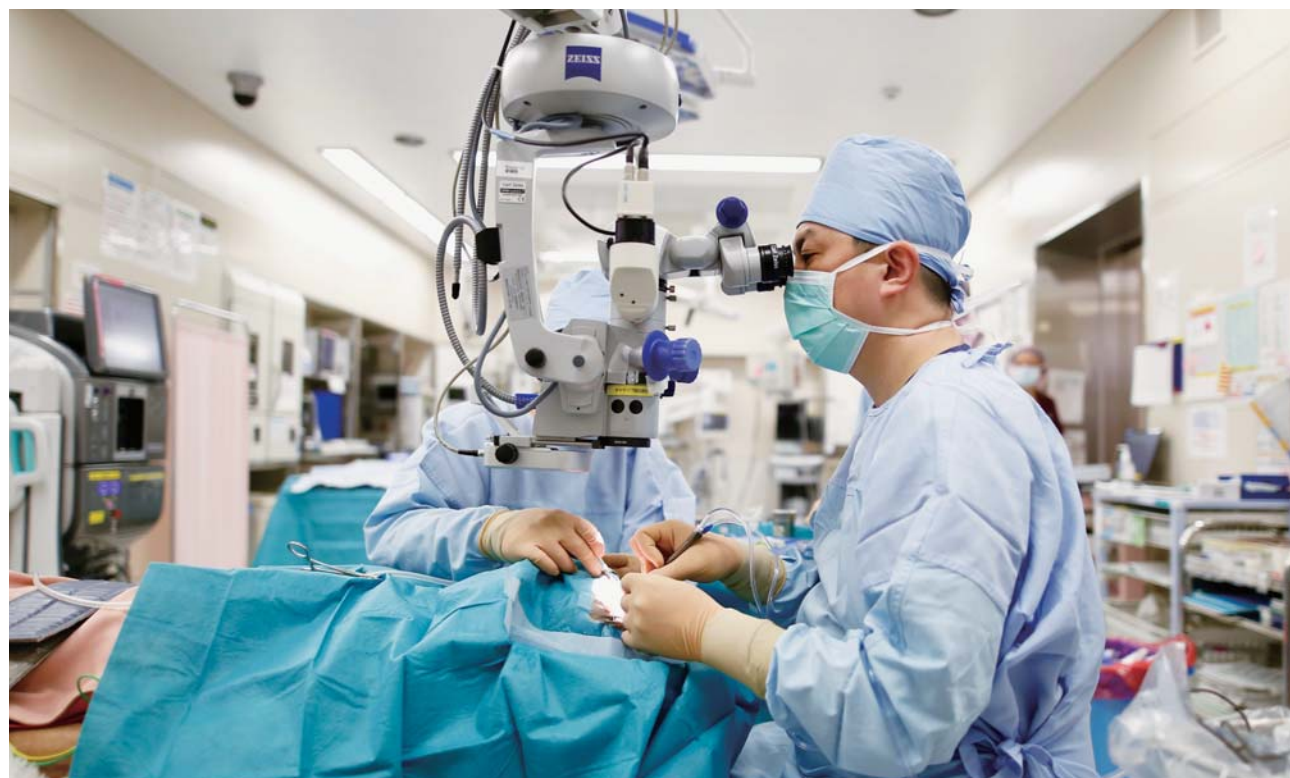
医療の進歩などによって、日本は世界有数の長寿大国となり、平均寿命も毎年世界1位を争っています。それに伴って超高齢化社会に突入しており、単に長生きするだけでなく、いかに質の高い生活（QOL: quality of life）を送るかが問題となっています。人間は、外界からの情報の9割以上を目の視覚情報から得ていますから、質の高い視機能（QOV: quality of vision）を保つことが、より良い人生を長く送る上でますます重要となってきています。このような状況の中で日進月歩で進歩し続ける最先端の眼科医療を提供することが、当眼科の使命と考えて日々頑張っています。眼科疾患全般について質の高い診療を提供することを目標としている当科には、優秀なスタッフ並びに、最先端の診療機器が充実しており、正確な診断と最善の治療を行うことが可能となっています。



部長 藤崎 竜也

Profile

- 日本眼科学会 ●日本眼科手術学会
- 日本網膜硝子体学会 ●日本眼感染症学会
- 日本涙道涙液学会 ●日本眼光学会



■実績件数 [2022年度]

硝子体手術	165	バックリング手術	1
白内障手術(同時含)	1,069	斜視手術	1
緑内障手術	209	その他	128

硝子体注射	1,501
PDT	13

整形外科

【取り扱う主な疾患】

・変形性膝関節症・変形性股関節症・膝半月板損傷・腱鞘炎・頸椎症性脊髄症・腰部脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニア・大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折・上腕骨頸部骨折・労働災害や交通事故などによる外傷・手根管症候群・手指の骨折・関節リウマチ・痛風・偽痛風・化膿性関節炎・糖尿病性壊疽など



合併症の多い高齢患者さんにも安全な整形外科治療を提供

高齢者に多い骨折（大腿骨近位部骨折・橈骨遠位端骨折等）や変形性関節症（股関節・膝関節）の治療に重点を置き、最新のインプラントや手術手技を随時取り入れるようにしています。脊椎疾患（腰部脊柱管狭窄症等）、末梢神経障害（手根管症候群・肘部管症候群等）の患者さんも多く、必要に応じて脳神経外科・神経内科と連携して診断・治療にあたっています。（2014年現在、脊椎手術を要する患者さんは当院脳神経外科あるいは他院と連携して治療にあたっています）心疾患・糖尿病・腎不全・脳梗塞など複数の合併症を持った患者さんが多くいらっしゃいますので、他科と連携して安全に手術を行い、早期離床及びリハビリテーションが行えるように努力しています。



部長 松崎 尚志

Profile

- 日本整形外科学会 専門医
- 日本人工関節学会 認定医
- 西日本整形・災害外科学会
- 日本股関節学会

■実績件数 [2022年度]

脊椎・脊髄外科	0
関節外科(人工関節等)股関節	35
関節外科(人工関節等)膝関節	10
外傷外科(骨折・脱臼・腱断裂等)上肢骨接合	23

外傷外科(骨折・脱臼・腱断裂等)下肢骨接合	38
外傷外科(骨折・脱臼・腱断裂等)その他	3
手の外科(腱鞘切開等)	10

末梢神経手術(手根管開放等)	9
骨軟部腫瘍	2
その他(抜釘・感染症、切断等)	17

形成外科

[取り扱う主な疾患]

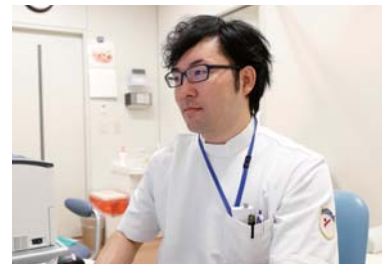
・けが・外来加療可能な熱傷・熱傷後瘢痕拘縮・ケロイド・顔面外傷・唇裂・顔面先天異常(鼻、耳などの変形、奇形)
・顔面神経麻痺・眼瞼下垂症・血管腫・母斑(アザ)・良性腫瘍・悪性腫瘍・皮膚癌など



飛躍的に進歩した 再建外科治療

全身を対象に組織欠損の修復や機能再建など多岐におよぶ形成外科分野ですが、マイクロサージャリーによる組織移植や各種皮弁の開発により飛躍的に進歩した再建外科を主とする治療に努めています。またQスイッチルビーレーザー及び炭酸ガスレーザーを導入したアザ・シミ・ホクロなどの最新治療、外見的に傷が残らない眼瞼下垂症の治療などの特徴的治療も行っています。

(注) 小児の診察は行っておりません。



部長 瀬崎 伸一

Profile

- 日本形成外科学会 専門医
- 日本創傷外科学会
- 日本頭蓋顎顔面外科学会
- 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会

■実績件数 [2022年度]

外傷	76
先天異常	2
腫瘍	114

瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	7
難治性潰瘍	180
炎症・変性疾患	17

レーザー	54
その他	30

麻酔科・集中治療部

[役割]

安全に麻酔を行うことで、患者さんの痛みをとり、安心して手術を受けていただけるようにすることが麻酔科医の役割です。



心臓大血管手術、 中枢神経系モニターを 駆使した麻酔管理

手術室の麻酔と重症患者さんの集中治療に重点をおいています。機能別救急医療体制の枠組みの中で、当院に期待されている心臓大血管手術の麻酔、中枢神経系モニターを駆使した神経麻酔に特色のある麻酔管理を行っています。周術期管理のみならず、院内外から救急を含めた重症患者さんに対して、救急部や各科と協力し、人工呼吸や血液浄化法を含めて、呼吸・循環管理を行っています。



主任部長 宮脇 宏

Profile

- 日本麻酔科学会 指導医
- 日本心臓血管麻酔学会 理事
- 日本専門医機構 認定麻酔科専門医
- 日本臨床麻酔学会
- 日本集中治療医学会
- 日本呼吸療法医学会
- 日本蘇生学会
- 日本神経麻酔集中治療学会

呼吸器外科

〔取り扱う主な疾患〕

肺癌・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・気胸

肺癌手術を中心とした呼吸器外科領域の診療“best care for the patient”

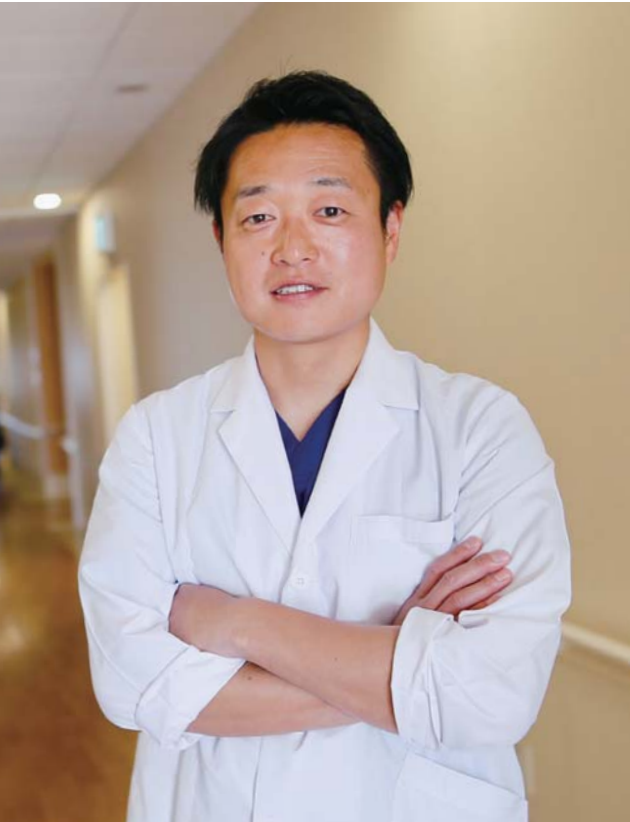
- ①主な対象疾患：肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸 ②手術のほぼ全例に胸腔鏡を利用し低侵襲化をはかっています。
③麻酔科の協力により狭心症等の併存症を持つ患者さんの治療に前向きです。
④他科との連携を大切に、肺癌に関しては、診断・治療・抗がん剤治療・分子標的治療・放射線治療・緩和ケア、その全てに対応します。



主任部長 大崎 敏弘

Profile

- 日本外科学会 専門医 指導医
- 日本呼吸器外科学会 指導医 評議員
- 日本胸部外科学会 指導医
- 日本呼吸器内視鏡学会 専門医 指導医
- 呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医
- 日本気管食道学会 専門医
- 日本呼吸器学会
- 日本臨床外科学会
- 日本内視鏡外科学会
- 日本肺癌学会
- 日本癌学会
- 日本癌治療学会
- 日本乳癌学会
- 産業医学ディプロマ
- 医学博士



部長 岡 壮一

Profile

- 日本外科学会 専門医
- 日本がん治療認定医療機構 がん治療認定医
- 呼吸器外科専門医合同委員会 専門医
- ロボット手術術者資格取得医
- 日本呼吸器外科学会 専門医 評議員 胸腔鏡安全技術認定医
- 日本胸部外科学会
- 日本呼吸器内視鏡学会
- 日本肺癌学会
- 産業医学ディプロマ
- 医学博士

■実績件数	[2018年]	[2019年]	[2020年]	[2021年]	[2022年]
肺癌手術	42	73	99	110	101
その他	61	92	87	90	71
肺疾患、縦隔腫瘍合計	103	165	186	200	172

呼吸器内科

〔取り扱う主な疾患〕

・肺癌・肺炎・慢性閉塞性肺疾患・慢性呼吸不全・間質性肺炎・気管支喘息・気管支拡張症・肺結核症・非結核性抗酸菌症など

他科との連携で最適な治療を実践

呼吸器感染症、肺癌、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、呼吸不全など他科との協力による、より良い呼吸器疾患の診療を目指しています。各種疾患の適切な診断のため、病理と協力した気管支鏡を用いた検査、胸膜炎の診断のための胸腔穿刺・ドレーンを用いた検査を実施しています。



主任部長 川波 敏則

Profile

- 日本呼吸器内視鏡学会 指導医 専門医
- 日本感染症学会 指導医 専門医
- がん治療認定機構 認定医
- 日本結核病学会 指導医
- 日本化学療法学会 指導医
- 日本内科学会 専門医 認定医
- JMECCインストラクター
- 日本呼吸器学会 指導医 専門医



部長 生越 貴明

Profile

- 日本内科学会 認定医
- 日本呼吸器学会 専門医 指導医
- 日本結核病学会 認定医
- 日本がん治療認定医療機構 認定医
- 産業医学ディプロマ

■実績件数	[2018年度]	[2019年度]	[2020年度]	[2021年度]	[2022年度]
外来化学療法	249	279	341	316	424

血液内科

〔取り扱う主な疾患〕

・白血病 ・骨髄異形成症候群 ・骨髄増殖性疾患 ・悪性リンパ腫 ・多発性骨髄腫
・再生不良性貧血 ・溶血性貧血 ・血小板減少性紫斑病など



治癒を目指して造血幹細胞移植療法などの高度医療を提供

北九州市および下関、大分など周辺の地域を医療圏として、難治性造血疾患に対する化学療法、放射線療法、分子標的療法、造血幹細胞移植療法（自家および同種）、および放射免疫療法から、貧血、血小板減少、出血傾向などの一般的な血液疾患の診療まで幅広く診療を行っています。特に、造血幹細胞移植については当院で早期に導入し、総計200症例を超え、最近では毎年20～30症例実施しています。移植後のフォローアップ看護師は計3名に、そして移植コーディネーターも養成中です。放射免疫療法に関しては、全国4位の実績を挙げています。また、病病連携を推進する目的で、小倉医療センター、九州労災病院、門司メディカルセンター、北九州総合病院などの血液内科医師、看護師とともに毎月症例検討会を行っています。



部長 米澤 昭仁

Profile

- 輸血部部长
- 京都大学医学部臨床教授
- がん診療部副部长
- 日本血液学会 指導医 専門医
- 日本内科学会 認定医 総合内科専門医 指導医
- 教育責任者 評議員
- 日本がん治療認定医機構 指導医 認定医
- 日本造血細胞移植学会 造血細胞移植認定医
- 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医
- 日本感染症学会ICD
- 日本医師会 認定産業医
- 日本輸血細胞治療学会 認定医
- 日本エイズ学会 認定医
- 日本救急医学会 ICLSインストラクター
- 日本内科学会・内科救急 JMECCインストラクター
- 日本リンパ網内系学会
- 細胞治療認定管理士
- 医学博士

■実績件数〔2022年〕(入院症例数)

急性骨髄性白血病	46
急性リンパ性白血病	13
骨髄異形成症候群	28

悪性リンパ腫	74
多発性骨髄腫	32
慢性骨髄性白血病	6

慢性リンパ性白血病	1
特発性血小板減少性紫斑病	14
その他	128

■造血幹細胞移植件数〔2022年〕

同種臍帯血移植	7
---------	---

同種骨髄移植	5
--------	---

同種末梢血幹細胞移植	4
------------	---

総合内科

〔取り扱う主な診療〕

・禁煙外来



禁煙外来を実施

総合内科では一般内科診療はもちろんのこと、地元地域の先生方と当院の各科専門医を結ぶ窓口機能に重点をおいて診療を行っています。また、女性特有の愁訴に全身的に対応するため院内の各科専門医と連携した女性のための外来や全国平均を上回る成功率を誇る禁煙外来も行っています。尚、女性外来はかかりつけの先生からの紹介状が必要です。



部長 田浦 裕輔

Profile

- 日本呼吸器学会 専門医
- 日本内科学会 認定医 専門医

□禁煙外来

患者さんに合った禁煙方法を。

2008年10月から当院では禁煙治療および禁煙のための補助薬であるニコチンパッチや内服薬も健康保険適用となりました。（保険適用には一定の条件があります。）ぜひこの機会にタバコのない新しい生活を始めてみませんか？禁煙に向けて私どもがお手伝いいたします。診療回数は、5回です。最初に40分ほどかけて禁煙しようと思った理由や喫煙スタイルを確認し、資料を活用してその方に合った禁煙方法をアドバイスします。ご希望の方には禁煙補助剤を処方します。その後2～4週間毎に通院いただき、禁煙状況の確認等をいたします。12週間で終了します。

糖尿病・内分泌・代謝内科

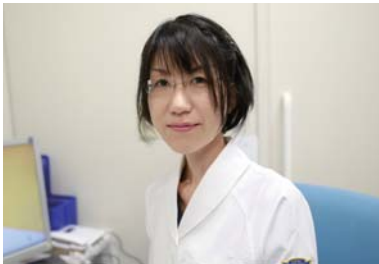
〔取り扱う主な疾患〕

・糖尿病・脂質異常症等の代謝疾患・甲状腺疾患・原発性アルドステロン症・褐色細胞腫
・クッシング症候群・尿崩症・先端巨大症などの下垂体疾患



糖尿病診療システムで地域のニーズに応える

糖尿病、脂質異常症等の代謝疾患、甲状腺疾患、内分泌疾患の診療を行っています。糖尿病は様々な合併症の原因となり、神経障害、網膜症、腎症、心筋梗塞、脳梗塞、歯周病、認知症、癌等の発症が問題となっています。増加している糖尿病患者さんに対応すべく、院内の糖尿病診療システムを構築して、他科と連携して地域の糖尿病診療ニーズに応えられるように努めます。



部長 角 亜希子

Profile

- 日本内科学会 専門医
- 日本糖尿病学会 専門医 指導医

■実績件数	[2018年度]	[2019年度]	[2020年度]	[2021年度]	[2022年度]
外来患者数	5,106	5,426	5,405	5,540	5,785

緩和ケア・精神科

〔取り扱う主な疾患〕

・がんによる苦痛に対する緩和ケア・神経症・うつ病・双極性感情障害・ストレス関連障害など主に心理的な問題から起こる疾患
・統合失調症・認知症・発達障害・摂食障害・アルコール依存症など



精神的な援助が 必要なさまざまな 状況に対応

外来での診察、院内での精神科リエゾン・コンサルテーションとともに、痛みをはじめとした、がんによる苦痛に対する緩和ケアを行っています。精神科疾患だけではなく、引きこもりや病気での気持ちのつらさなど、精神的な援助が必要なさまざまな状況にも関わっています。患者さんだけでなく、ご家族の相談も行っています。



部長 三木 浩司

Profile

- 日本精神神経学会 専門医 指導医
- 臨床心理士
- 精神保健指定医

■実績件数 [2022年]

神経症	78
認知症	14
統合失調症	7

気分障害	23
軽度認知障害	10
その他	63

せん妄	1
発達障害	8

病理診断科

[役割]

組織診断・細胞診断・病理解剖・迅速診断



病理組織診断、 術中迅速診断、 細胞診断 および病理解剖

病理医と検査技師とで各科からの病理組織診断、術中迅速診断、細胞診断および病理解剖を行っています。病理・細胞診検査業務支援システムの導入により業務が効率化されました。できるだけ画像を添付し、分かりやすい病理診断報告にすべく努力しています。日頃から診断能力の維持・向上に努め、症例検討会や研究会に積極的に参加、問題症例は他施設の専門病理医や病理学会のコンサルテーション・システムを利用し、患者さんに不利益のないよう務めています。



部長 木下 伊寿美

Profile

- 日本病理学会 専門医
- 日本臨床細胞学会 専門医 細胞診専門医

■実績件数 [2022年]

組織診断	5,507
迅速診断	271

細胞診断 6,818

病理解剖 6

救急部

[役割]

救急告示医療機関として北九州独自の機能別救急医療体制に基づき、救急部を基幹に1分1秒を争う状態の患者さんを救急隊との緊密な連携のもと、すみやかに受け入れる体制を整えています。



年間約9,000例の 救急症例を受け入れ

救急搬送症例の受入れと時間外症例の初期対応を担当し、全診療科、全部署との協力体制のもと、年間約9,000例の救急症例を受け入れています。救急症例のうち約4割を心血管系疾患の症例が占めるのが特徴です。救急症例が緊急入院となる場合は、心臓疾患症例はCCU・セミCCU・心臓血管病棟など、心臓疾患以外の症例は、ICU、SCU、HCUなどで疾患や重症度により対応しています。



主任部長 中島 研

Profile

- 麻酔科標榜医
- 日本麻酔科学会 指導医
- 日本集中治療医学会 専門医
- 日本救急医学会 専門医
- 日本臨床救急医学会
- 日本蘇生学会
- 日本臨床麻酔学会
- 日本専門医機構 認定麻酔科専門医

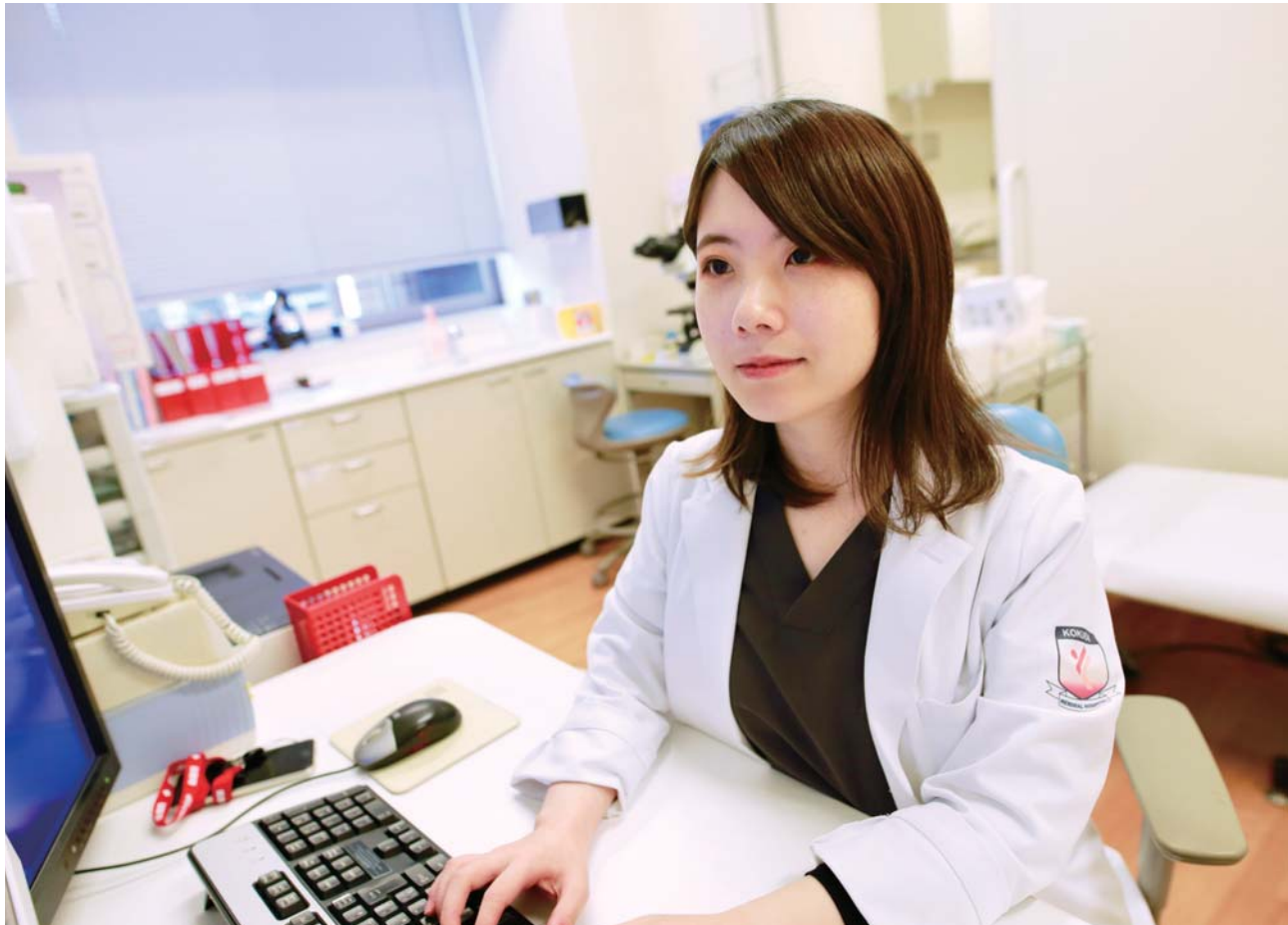
■実績件数

	[2018年度]	[2019年度]	[2020年度]	[2021年度]	[2022年度]
救急車搬入数	4,840	5,071	4,337	5,024	4,637
救急患者数	9,089	9,165	7,431	7,438	7,609

皮膚科

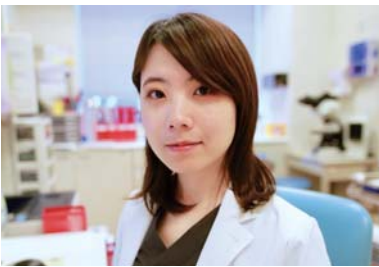
[取り扱う主な疾患]

・アトピー性皮膚炎・湿疹・蕁麻疹・白癬・帯状疱疹・粉瘤・基底細胞癌・尋常性ざ瘡・脱毛症・鶏眼・熱傷など



かかりつけ医と連携し地域全体で医療を行う

主に診療所や個人病院からの紹介を受け診察を行っています。診療所では困難な検査や病理学的診断、画像検査を行うことで、診断から加療を中心にを行い、診断をつけ、治療方針が定まった上で、診療所や病院へ紹介させていただいています。慢性疾患では、特に、かかりつけ医と連携をし、患者さんに合った治療を行っていく事を目標としています。



部長 大萱 茜

Profile

- 日本皮膚科学会
- 日本皮膚悪性腫瘍学会

放射線科

[役割]

IVR(インターベンショナルラジオロジー、画像下治療)と画像診断を行います。画像診断は全身について行っておりますが、特に急性・救急疾患の診断を専門にしております。IVRは血管系、非血管系を問わず、患者さんの役に立つ手技であれば可能なものは何でも行います。

最新鋭の装置を導入した放射線治療

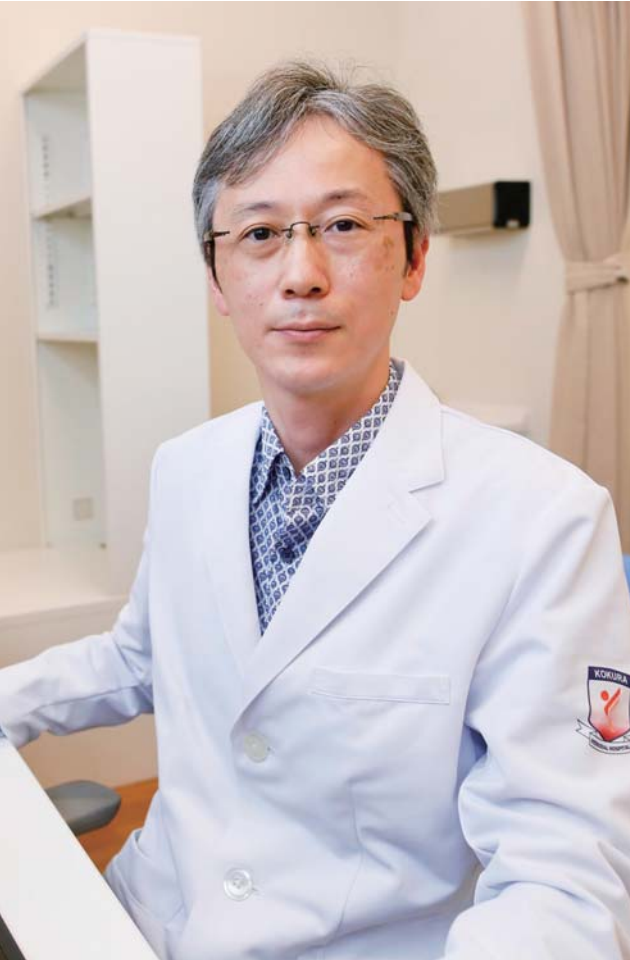
2011年4月から、最新鋭の放射線治療装置(Varian社製リニアック)による放射線治療が開始されました。放射線治療は悪性腫瘍に対する診療において不可欠の治療手段であり、当院に来られる患者さんの診療に必ずお役に立てると思います。また、診断機器でも、冠動脈用CTも含め64列のマルチスライスCT装置4台、高磁場MRI装置2台(3及び1.5ステラ)、ガンマカメラ2台、Angio-CT搭載血管造影装置2台という、いずれも最新鋭の装置を導入しています。



主任部長 上田 浩之

Profile

- 日本医学放射線学会 専門医 研修指導医
- 日本インターベンショナルラジオロジー学会 専門医 指導医
- 日本腹部放射線学会
- 日本腹部救急医学会
- 日本血管内治療学会
- 日本小児放射線学会
- 医学博士



部長 内山 大治

Profile

- 日本インターベンショナルラジオロジー学会 指導医
- 日本医学放射線学会 指導医
- 日本核医学会 PET核医学認定医
- 日本乳がん検診精度管理中央機構 健診マンモグラフィ読影認定医

健診が医療に直結している

当センターは病院に併設されているため診療部門と連携した精度の高い健診を実施しております。検査結果はすべて病院内で共有され、異常があれば当センターから院内紹介を行い該当科の専門医によって速やかに精密検査や専門的治療を行うことが出来ます。また、健康管理センター内の医師がすべての異常結果に目を通し、至急受診が必要な異常データを見つけた場合は看護師を通して速やかにご本人に連絡するシステムをとっています。そのため至急連絡先も確認させていただいております。「健診が医療に直結している」、それが当健康管理センターの特徴です。

〔健康診断の種類〕 ※詳しくは、当院ホームページをご覧ください。



宿泊ドック

- 小倉記念病院の各分野の専門医師がそれぞれの検査項目に個々に目を通し個別判定後、総合判定いたします。
- 頭から骨盤まで、一度にCTで全身検査をいたします。
- 耳鼻科、眼科、整形外科の専門医による診察をいたします。診察結果に問題点あれば、病院受診の手配をいたします。
- 保健師による保健指導では、日常生活面での些細な疑問や健診データについてわかりやすく説明いたします。管理栄養士による食事のアドバイスや指導を行います。

〔宿泊ドックオプション〕



心臓ドック



脳ドック



大腸内視鏡検査



日帰り人間ドック

日帰りドックは時間のない多忙な現代人にマッチした総合健診です。多項目に亘り詳しい検査を実施し、多くの疾病の早期発見に効果があります。

(社)全日本病院協会 日帰り人間ドック実施指定施設



看護部

高い技術と優しい心の看護

看護師の仕事は、いつも患者さんのそばにいて、病気を克服する、あるいは悪化しないようにする、また、病気と付き合いながらも、生き生きとした生活が送れるようなお手伝いをする事です。病状の安定してない状況の患者さん・ご家族の不安が最小限となるような看護の提供に努めてまいります。看護の「看」という字は、「手を当てて遠くを見る」という意味です。それは、心を込めた手であり、先を見通す目です。その人がその人らしく生きてゆくことのできる援助をさせていただき、私たち看護師も成長していきたいと願っています。



薬剤部

薬のスペシャリストとして

患者さんに使用されるお薬全般に関わっています。入院の際に、お持ちになった薬を調べることで“効果が出ているか”、“副作用は出ていないか”などを確認しています。病院で使用される薬は、投与量や飲み合わせなどを確認しながら調剤を行っています。抗がん剤は、治療の経過を踏まえた上で内容に問題ないかを確認し、専用の部屋で無菌的に調剤しています。薬の中にはちょっとした量の違いで効果が出るもの、逆に副作用が出てしまうものがあります。このような薬は、血液中の濃度を測定することで一人ひとりに合った薬の使い方を医師に提案しています。病棟に常駐し、薬剤治療の支援や安全管理に携わっています。患者さんが安心して治療を受けられるよう、薬の専門家としてチーム医療を行っています。



検査技師部

信頼される

迅速で正確な検査

患者さんと直接に行う、心電図や超音波（エコー）、脳波や肺活量といった機能検査と血液や尿などの患者さんから提供された検体の中の成分や細胞について調べることが役割です。



放射線技師部

最新の放射線機器を駆使

私たち診療放射線技師は医療の現場で放射線を取り扱う唯一のスペシャリストであり、より少ない放射線量で診断効果の高い画像が提供できるように努力しています。私たちは一般撮影、透視、CT、MRI、RI、カテーテル検査、放射線治療に従事し、日々、装置の点検や管理を行い、多くの職種の方々と協力をしながら、患者さんに安心、安全な検査を行っています。慣れない検査で不安な気持ちを少しでも解消していただき、小倉記念病院の十分に整った装置と環境の中で、満足度の高い検査を受けていただけるよう私たち放射線技師は患者さんと関わっていきます。



リハビリテーション課

笑顔と信頼のリハビリを提供

病気に伴う障害が改善するよう、運動機能面や生活動作面からサポートしています。体の状態、治療の進行状況に合わせてベッドサイドよりリハビリを始め、少しずつ練習量を増やし、状態が落ち着いてきたらリハビリ室での運動を行います。当課では理学療法士による運動機能の改善、作業療法士による高次脳機能（物事を考えたり記憶する能力）の改善や日常生活動作の拡大、言語聴覚士による嚥下機能（食物をのみこむ能力）やコミュニケーション能力の改善、そして健康運動指導士による生活習慣病の予防・改善のための運動指導を行っています。



臨床工学課

各治療を支える 機械のプロフェッショナル

医療機器がいつも安全に作動するように保守点検、操作を行うのが私たちの役割です。業務の多くは患者さんのベッドサイドで臨床業務に携わっています。人工呼吸器や人工心肺装置などの生命維持管理装置から、点滴をおこなう機械と幅広く管理を行います。



栄養管理課

患者さんの食生活をサポート

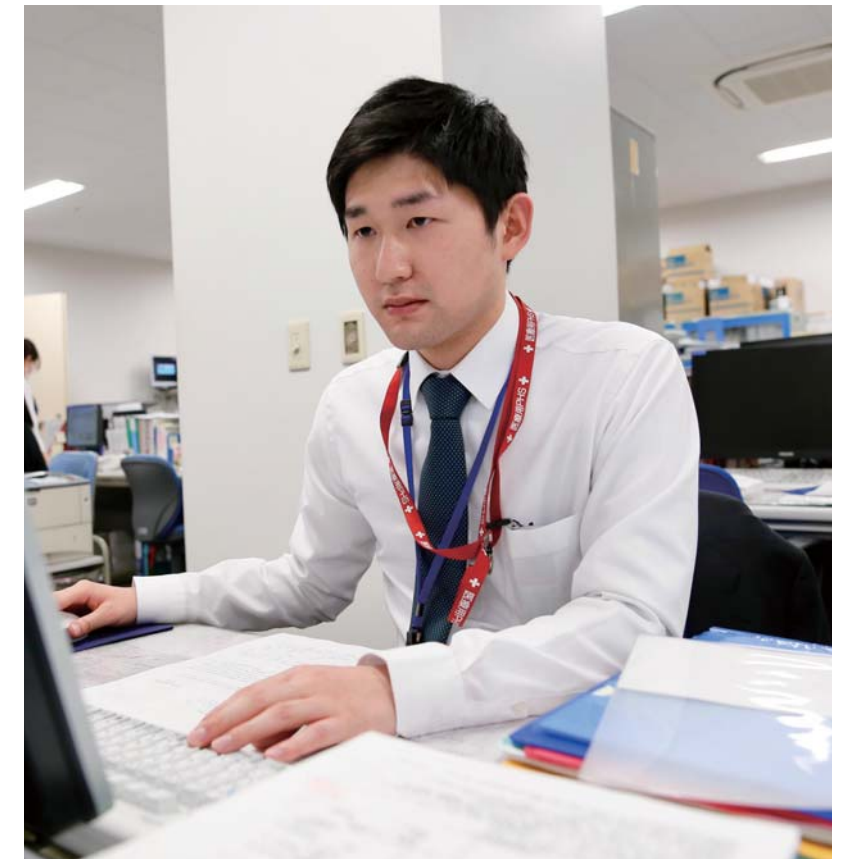
私たちは患者さんの病態やライフスタイルに合わせ、ご家庭でも無理なく食事療法が続けられるよう食事内容や料理方法についての栄養指導、情報提供を行っています。入院患者さんへは、安全でよりおいしく、身体と心の栄養となる食事の提供に努め、ひとりひとりの身体状況や食事の様子を伺いながら、過不足がないよう年齢や体格にあわせた栄養量、栄養補給方法、食事形態の提案を行っています。どうしても食べられない場合には補助食品を使用しながら栄養バランス、栄養状態が良くなるよう栄養管理を行っています。



事務

地域に求められる病院づくり

私たちには3つの役目があります。①患者さんのサポート／患者さんが来院された際にまずお出迎えします。スムーズに診療に移り、安心して治療が始められるよう、医療への橋渡し役を果たします。②医療従事者へのサポート／最前線で活躍する医師や看護師が、患者さんへ最高のパフォーマンスを発揮できるように、医療従事者への環境整備支援に取り組んでいます。③経営のサポート／小倉記念病院が地域の中核病院として地域の方々の健康を支え続ける使命を果たすために、長期的な経営の安定・発展に取り組んでいます。



高度急性期病院として 24時間365日、 皆さんの健康を守ります。

心臓疾患・脳疾患を中心とした 救急医療体制

当院は、救急告示医療機関として北九州市独自の機能別救急医療体制に基づき、救急隊を積極的に受け入れると同時に、より密接な医療連携を進めています。救急告示病院とは、厚生労働省の定める省令に基づいて都道府県知事が認定した医療機関です。救急医療の知識や経験を持つ医師が常時待機していることや救急医療を行うために必要な施設及び設備を有するなどの基準に該当しています。救急部を基幹として、循環器内科・心臓血管外科・脳神経外科を中心に、1分1秒を争う状態の患者さんを、救急担当医と救急隊との緊密な連携のもと、すみやかに受け入れる体制を整えています。また、他の内科系・外科系の診療各科も当直・宅直体制を敷き、日夜、病状の急変に対応しています。

小倉記念病院

救急医療体制



受診

救急部

状況確認

診察

応急処置



検査室

各種検査

画像診断



専門医

診断

治療

手術



特に多いのは急性心筋梗塞や脳梗塞であり、専門医の迅速な判断で救急室より専門の治療室へ移動し適切な治療を行います。常に救急病床を確保し24時間365日対応できる体制を整えています。

入院

集中治療室
(ICU・CCU・SCU)

専門病棟



退院

自宅

連携病院

リハビリテーション施設

かかりつけ病院

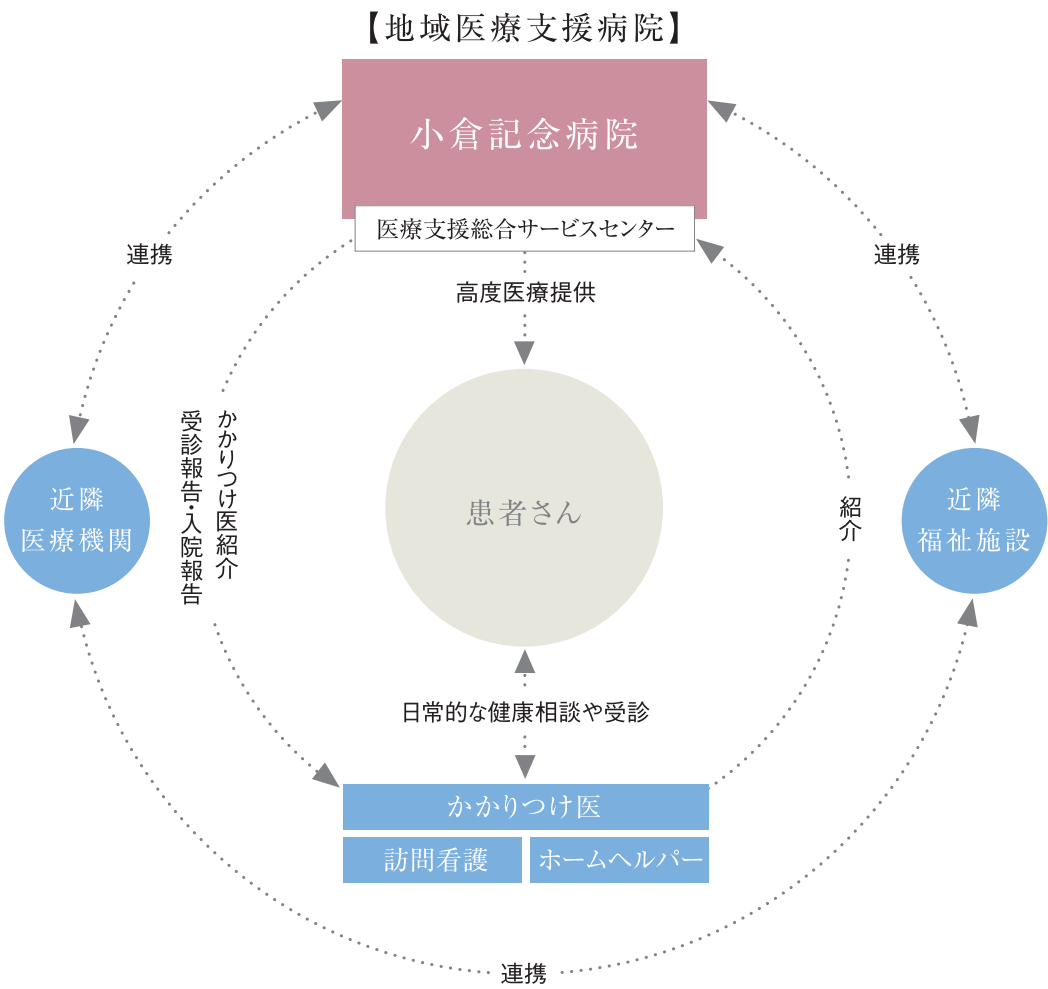
かかりつけ診療所

療養・介護病床のある病院

介護・訪問介護施設

患者さんを中心とした 地域で行うチーム医療

今、安心して医療が受けられる地域であるためにチーム医療が求められています。
どの医療機関においても、同じ目線で患者さんを見守っていくことが大切です。
「地域医療支援病院」として高度医療を提供しながら、各医療機関が連携し、
地域で完結する医療の実現を目指しています。



患者さんを紹介していただく場合、事前にFAXで医療連携課へ「診察申込書」を送信してください。「診察申込書」はホームページに掲載しております。診察受付時間外の受診については、各担当科と確認をとって対応いたします。救急患者さんをご紹介いただく場合には、当該診療科の当直医へご連絡ください。診療科がはっきりしない場合には、救急部当直医までご連絡ください。

医療支援総合サービスセンター
FAX.0120-020-027 (直通) (対応時間 / 8:10~17:00)

救急外来のご案内
TEL.093-511-2000 (代表)

医療支援総合サービスセンター



医療連携課・医療支援課・がん相談支援センターの連携により地域包括ネットワークの一役を担う

退院調整看護師、社会福祉士(MSW)、事務員で構成される当センターは、地域の医療機関から紹介された患者さんの受診手続き及び、受診後報告、転院相談、各種制度の説明、かかりつけ医のご紹介(逆紹介)などを行います。また、患者さんの入院・退院における相談、退院支援、そして院内、院外との連携を密にとることで住み慣れた地域での生活サポートを目指しています。

院外からの検査受付



医療連携課が窓口

医療検査設備を地域の医療機関のみならずにもご利用いただけるよう、医療連携課を窓口受付しています。利用できる主な検査設備は、「内視鏡」頭部「CT」「MR」等です。

かかりつけ医との連携



早期発見、予防のために

かかりつけ医を持つことで病気の早期発見・予防につながり、早急な対応が可能になります。当院では日常的な診療や健康相談を行うかかりつけ医との連携を大切にしています。

勉強会・研修会の開催



地域医療技術向上へ

地域医療技術向上のために、各分野の専門の先生を講師としてお招きし、研修会を実施しています。院内はもちろん院外の多くの方々にご参加いただいています。

医療連携誌「HANDS」

年4回発行する医療連携誌「HANDS」(発行部数2,500部)にて、診療科の案内や院内行事など、様々な情報を発信しています。



医療環境



心臓カテーテル室(6室)・血管造影室(2室)

療養環境



特別室

将来を見据えた規模と先進性のある医療設備

- 手術・治療室／手術室13室(ハイブリット手術室2室)、心臓カテーテル室6室、血管造影室3室、透析室36床、外来化学療法室19床
- 集中治療室／ICU20床、CCU20床、セミCCU20床、SCU15床、無菌室15床
- ※設備配置は治療の流れに沿って設計されており、患者さんの負担を抑えながら診療をスムーズに実施することが可能です。

治療に専念できる快適な療養環境

静かな環境の中で安心して療養生活をおくれるよう、充実のアメニティーを提供しています。
患者さんや付き添いの家族の方々が安心して、より快適に医療を受けられるような環境づくりを心掛けています。

最新医療設備

高度専門・急性期医療を支える先進性



ICU(20床)

当院は27の専門診療科から構成される高度専門・急性期分野の医療を提供しており、中でも循環器内科を中心とした全身の血管治療を行う体制(心臓血管病センター、脳卒中センター、腎センター)は専門診療科の医療設備と共に強化しております。

抜群のアクセス

小倉駅と直結 都市高速に隣接



JR小倉駅と屋根付きのペデストリアンデッキ(歩行者回廊)で結ばれ、安全に快適に来院していただけるようになりました。陸路でも都市高速「小倉駅北出入口」に隣接し、大変利用しやすい交通状況となっています。

個室

安心感とゆとりのある病室で入院治療に専念



患者さんやご家族の負担を軽減し、入院治療に専念していただけるようゆとりある病室を追求しました。一般病床は4床室でも1床あたり10㎡の広さを確保し、プライバシーが確保された個室は、16.4㎡～34.2㎡でアメニティーの異なる4タイプをご用意しました。

緑化された空間

緑化でやすらぎの時間を提供



待ち時間に、やすらぎを提供できるように2階受付横に中庭を配置しております。また、入院患者さんやお見舞い、付き添いのご家族には、くつろぎの語らいができるよう屋上庭園があります。敷地外周にも緑化を施し、地域環境に配慮した空間です。

ゆとりの療養環境

ぬくもりと開放感のある空間デザイン



やわらかなホワイト・あたたかな木目を基調に、ぬくもりを感じる空間を演出しています。3層吹き抜けのエントランスホールや中庭、廊下幅2.8m・天井高2.8mの病棟、自然とふれあっていただける屋上庭園や敷地外周部の豊かな緑化は開放感を感じさせます。

建築コンセプト

目指したのは「100年以上永続させる建物」



周辺より約2m高い地盤を築き、高い耐震性と耐久性を持った建築材料を採用。また、環境配慮型の素材や遮熱性の高い硝子の採用、自然エネルギーを利用した空調、地球温暖化ガス排出を抑えることを意識した環境にやさしい建物です。

レストラン

はなさき食堂



ご来院の方が、わざわざ外に食事にごける手間がないよう、2階にレストランを用意しています。また2階にはカフェ、1階にはコンビニを設置し、外来患者さん入院患者さんにも配慮した店舗を準備しています。

リハビリテーション

運動機能、生活動作をサポート



「住み慣れた地域や家で生活したい」「趣味を続けたい」「ごはんが食べたい」といった、お一人お一人の気持ちを大切にしています。病気に伴う障害が改善するよう、少しでも早く社会復帰や自宅退院できるように運動機能面や生活動作面からサポートいたします。

健康で安心に暮らす幸せ

私たちは、地域のみなさんが健康で安心して暮らせることを願い、
100年に亘りこの小倉の地で医療を提供してきました。
人・技術・精神・信頼を財産に、これからもずっと、地域に必要とされる病院を目指します。

大正

05年

当時京都大学助教授を辞した副島豫四郎氏が、小倉市宝町にあった外科病院を母体に、私立小倉記念病院を創立(名称は、大正天皇御大典を記念して名付けられた)標榜科:内科、小児科、外科、婦人科、耳鼻咽喉科計5科。



私立小倉記念病院時代

06年

眼科、皮膚泌尿器科、歯科を増設。標榜科計8科。

昭和

23年

私立小倉記念病院を厚生省へ移譲、朝日新聞西部厚生文化事業団に経営を委託し、社会保険病院となる。敷地面積2,937、標榜科8科、許可病床数117床、職員数100名。

26年

整形外科を増設。標榜科計9科。

37年

麻酔科を増設。標榜科計10科。



昭和40年頃

41年

皮膚泌尿器科を皮膚科、泌尿器科に分け、標榜科計11科。脳神経外科を増設。標榜科計12科。

44年

放射線科を増設。標榜科計13科。

昭和

45年

新病院を北九州市小倉北区貴船町1番1号に新築。敷地面積16,538、標榜科13科、許可病床数550床、職員数441名。



貴船町

54年

循環器科、心臓血管外科を増設。標榜科計15科。心臓病センター新築・開設。標榜科15科。許可病床数605床。

57年

消化器科、形成外科を増設。標榜科計17科。

58年

神経内科を増設。標榜科計18科。

59年

心臓病センター増築。標榜科18科。許可病床数659床、職員数689名。本館3階病棟にクリーンルーム設置。病床数658床に変更。

63年

外国医師臨床修練指定病院に指定。

平成

14年

歯科を閉科。標榜科計18科。産婦人科を改め、婦人科となる。HCU新設。(13床)

15年

本館8階病棟にクリーンルーム13床設置。(計15床)

16年

開設者が、朝日新聞厚生文化事業団から財団法人平成紫川会となる。呼吸器科・呼吸器外科を増設、小児科を閉科し、標榜科計19科。臨床研修病院に指定。

17年

地域医療支援病院に指定・救急告示病院に指定。

20年

血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、血管外科の増設。標榜科計23科。

22年

北九州市小倉北区浅野に新築移転。



浅野

呼吸器外科を閉科、乳腺外科、頭頸部外科を増設。標榜科計24科。

26年

名称を一般財団法人 平成紫川会 小倉記念病院に変更。病理科を改め「病理診断科」となる。標榜科計25科。

28年

呼吸器外科、消化器外科を増設。標榜科計27科。創立100周年を迎える。

30年

一般病床50床、HCU12床を統合し、一般病床60床として運用する(許可病床数656床)

【理 念】

患者さんの幸せ並びに地域医療の進歩発展に尽力し、
地域住民の幸せに貢献すると同時に全職員の幸福を追求します。

【行動指針】

- ☐ 情報を公開し、みなさんに選ばれる病院をつくります。
- ☐ 地域に根ざした病診病病連携と高度先進医療に取り組めます。
- ☐ 救急医療と医療安全に職員一体となって尽くします。
- ☐ 患者さんに心のこもった挨拶と笑顔で応えます。
- ☐ 院内の整理整頓と美化に努めます。
- ☐ 高い人格・倫理性を備えた職員を育てます。

名 称	小倉記念病院	2 7 診 療 科	〔心臓血管病センター〕 循環器内科、心臓血管外科、血管外科 〔脳卒中センター〕 脳神経外科、脳神経内科 〔消化器病センター・内視鏡センター〕 外科、消化器内科、消化器外科 〔腎センター〕 腎臓内科、泌尿器科
所 在 地	〒802-8555 福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.(093)511-2000(代表) FAX.(093)511-3240		
役 員	病院長 腰地 孝昭 副院長 金井 英俊 副院長 宮脇 宏 副院長 安藤 献児 副院長 兼 看護部長 後藤 明子 副院長 兼 事務長 中井 栄治		
創 立 年 月 日	大正5年6月		耳鼻咽喉科、頭頸部外科、婦人科、眼科、整形外科、 形成外科、皮膚科、乳腺外科、呼吸器外科、麻酔科、 内科、血液内科、糖尿病・内分泌・代謝内科、 呼吸器内科、放射線科、緩和ケア・精神科、 病理診断科、健康管理センター、救急部
開 設 者	一般財団法人 平成紫川会	職 員 数	1,496人(パート含む 2023年4月1日現在) 医師:174人 看護師:801人 看護補助者:56人 保健師:3人 薬剤師:35人 診療放射線技師:47人 臨床検査技師:57人 臨床工学技士:26人 理学療法士:20人 作業療法士:7人 言語聴覚士:3人 管理栄養士:7人 栄養士:3人 調理師:28人 視能訓練士:4人 治験コーディネーター:3人 ソーシャルワーカー:5人 事務:196人 一般技術員:9人 その他:12人
理 事 長	腰地 孝昭		
構 造	鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造 本館 地上13階塔屋1階 (一般病棟側13階、心臓血管病センター10階、一部地下1階) エネルギーセンター棟 地上3階 駐車場棟 地上5階 塔屋1階		
施 設 概 要	敷地面積/26,686.32㎡ 建築面積/17,887.06㎡ 延床面積/86,321.02㎡		
病 床 数	656床(うち個室278室) (内訳)一般病床601床(うち無菌室15床、セミCCU20床)、 CCU/20床、ICU/20床、SCU/15床		
一般病床の面積 (1床あたり)	個室 16.4~32.6㎡ ※特別室除く 多床室 8㎡以上(平均5.35㎡)		

60 Kokura Memorial Hospital